

YAMAHA
Clavinova

取扱説明書

CVP-89の特長

■気軽にアンサンブル
演奏を楽しめる自動伴奏
(オート・ベース・コード)
[ABC]機能(→P44)

■多彩な100種類
(内蔵:50+ディスク:50)
の音楽スタイル(→P36)

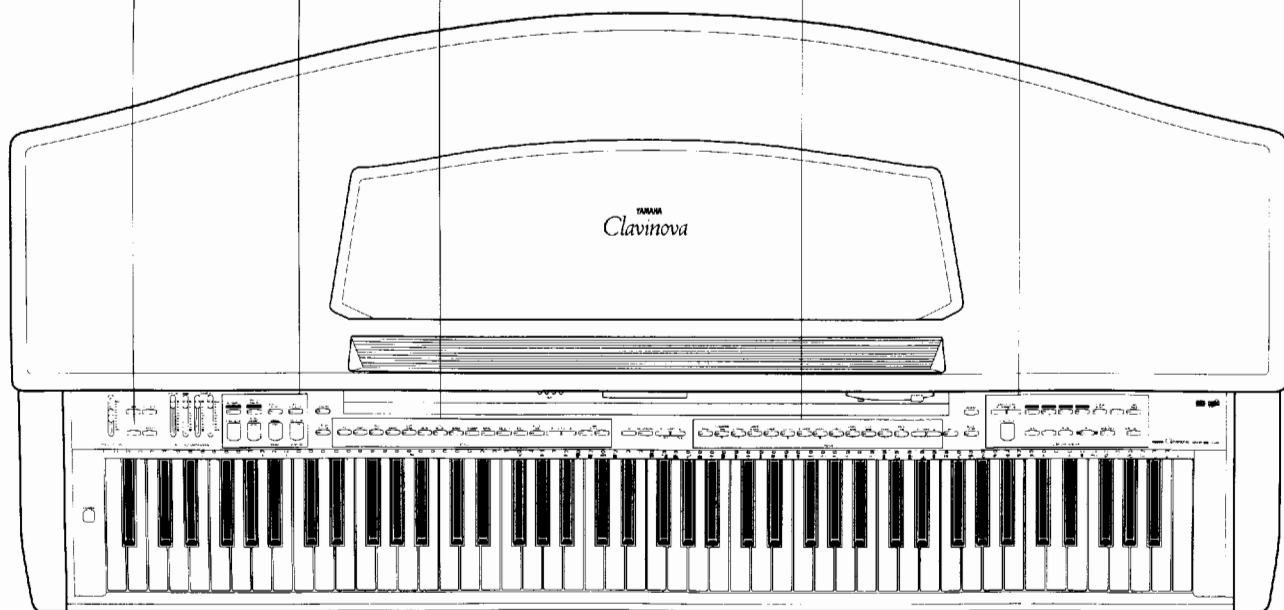
■オーケストラやバンド
に合わせて演奏できる
ディスク・オーケストラ・
システム(→P57)

2

■他の電子楽器と接続
して音楽の世界を広げる
MIDI機能(→P117)

■リアルで豊かな響き
をもつ60音色(→P16)

■自分の演奏を簡単に
録音／再生できる
パフォーマンス・
メモリー(→P73)



正しくお使いいただくために



設置場所

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- 窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に熱い場所
- 温度の特に低い場所
- 湿気やホコリの多い場所
- 振動の多い場所



お取り扱い

次のようなご使用は、故障や、外装を痛める原因となりますのでご注意ください。

- 物をぶつけたり、上に乗るなど、乱暴に扱う。
- 汚れた手や濡れた手で触れる。
- キーカバーを乱暴に開閉する。
- 譜面立てを乱暴に立てたり、倒したり、中間位置で放置する。
- ボタンやスイッチ類に無理な力を加える。



クラビノーバの上にものを置く場合のご注意

次のようなものをクラビノーバの上に置きますと、水がこぼれて故障の原因になったり、外装を痛める原因となりますのでご注意ください。

- 水の入った花瓶や鉢
- 塩化ビニール加工された表紙の本、ビニール製品、プラスチック製品



外装と鍵盤のお手入れ

- お手入れは、フェルト布などの柔らかい乾いた布で乾拭きするか、汚れのひどいときは少し水で湿らせた布で拭いてください。アルコールやシンナーなどの溶剤は、絶対に使用しないでください。
- 市販の化学雑巾や外装手入れ剤のご使用は避けてください。



電源

- このクラビノーバは日本国内仕様です。電源は必ずAC100Vでご使用ください。
- ご使用にならないときは、電源スイッチを切ってください。
- 落雷の危険があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 消費電力の大きな機器と同じコンセントを使用したり、タコ足配線をするとう質が劣化したり、故障の原因となりますのでご注意ください。
- 濡れた手で電源プラグに触れると、感電するおそれがありますので、ご注意ください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いてください。コードを引っ張ると断線やショートの原因となります。



接続

- クラビノーバを外部機器と接続するときや接続コードをはずす時は、スピーカーやアンプの損傷を防ぐため、あらかじめ両機器の電源を切ってください。
- 電源を入れるときや切るときは、あらかじめ両機器のボリュームを最小にしてください。



他の電気機器への影響

ラジオやテレビの近くで使用しますと、ラジオやテレビに雑音が発生することがあります。十分に離してご使用ください。



ディスクのお取り扱い

付属のフロッピー・ディスクは、非常にデリケートですので、お取り扱いには十分注意してください。特に次の点にご注意ください。

- シャッター部は開けないでください。内部のディスク表面を汚したり、ホコリ、傷などを付けることがあります。
- スピーカーやテレビなど、磁気の強いものに近づけないでください。(→P69ページ)

その他

- クラビノーバの内部を開けたり、改造することは事故や故障の原因となりますので、絶対にしないでください。改造後の保証はいたしかねます。
- 誤って水やその他の液体をクラビノーバにこぼしたり、クラビノーバから異臭や煙が出たときは、すぐに電源プラグを抜き、お買い上げ店または巻末のサービス拠点にお問い合わせください。



保証書

お買い求めいただきました際に、お買い上げ店で必ず保証書の手続きをお取りください。保証書にご購入日や販売店印がない場合、保証期間中でも修理の費用をいただくこととなりますので、ご注意ください。

クラビノーバは調律の必要がありません。



音楽を楽しむエチケット

これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時間や場所によっては気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。隣近所への配慮を十分にしたい生活環境を守りましょう。

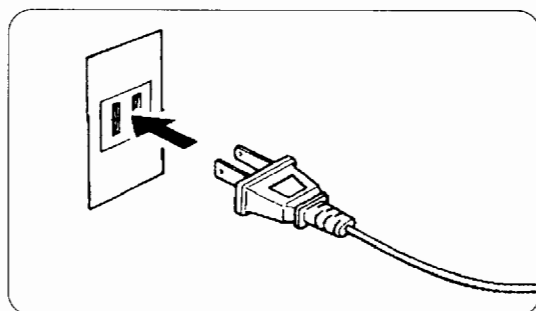
ご使用前の準備

音を出す準備

1

電源コードを接続する

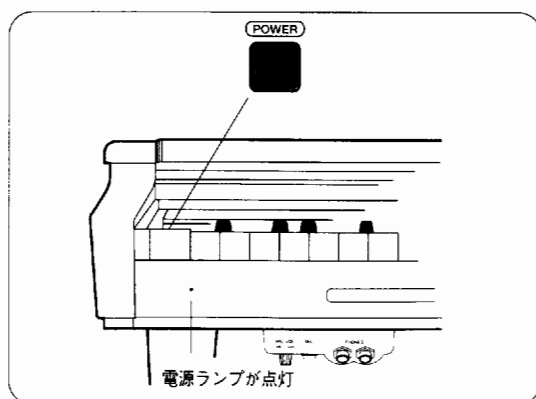
家庭用 (AC100V) コンセントに、電源プラグを差し込みます。



2

電源を入れる

電源スイッチを押します。



4

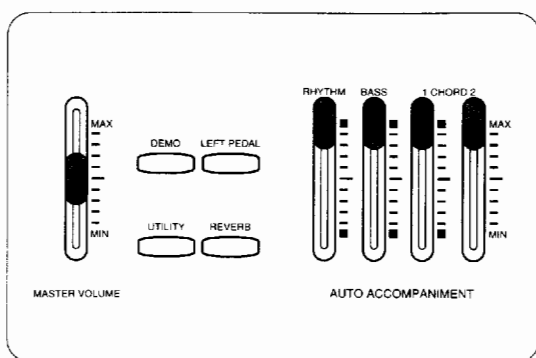
3

音量を調節する

[MASTER VOLUME]を中程まで上げておきます。
あとは、クラビノーバを実際にお使いいただきながら、調節してください。

[AUTO ACCOMPANIMENT]の各ボリュームは、通常MAXの位置にしておいてください。

(MAXの位置で標準音量に設定されています。)
音量調節について詳しくは17ページ(マスター・ボリューム)、42ページ(手弾き音量)、48ページ(アカンパニメント・ボリューム)をご覧ください。



キー・カバーについて

開けるとき

1

少しだけ持ち上げる。(持ち上げすぎないように、ご注意ください。)

2

ガイド・レールの上をすべらせて開ける。

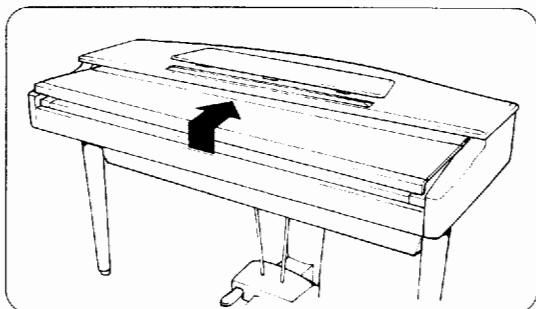
閉めるとき

1

ガイド・レールに沿って下へすべらせる。

2

手を添えて降ろす。



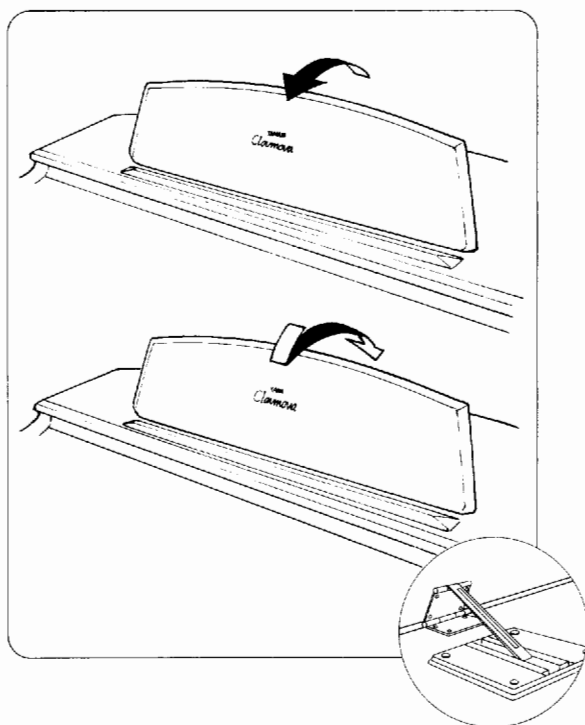
譜面立てについて

立てるとき

- 1 カチッと音がするまで手前に起こす
- 2 固定される位置までゆっくり戻す
(ブラケットが譜面立てを支えます。)

倒すとき

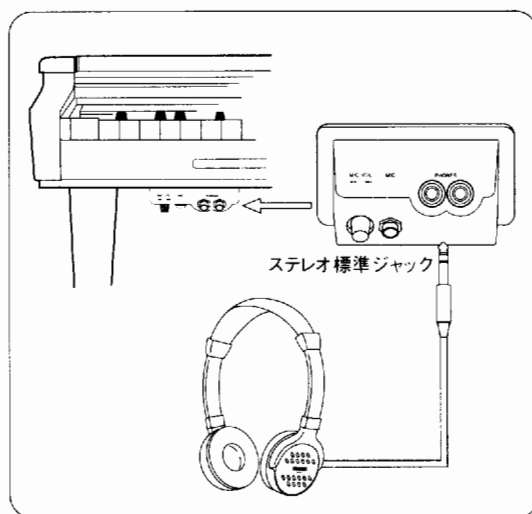
- 1 カチッと音がするまで手前に起こす
- 2 手を添えてゆっくり倒す



ヘッドフォンの使い方

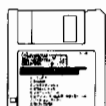
ヘッドフォン(別売)をPHONES(ヘッドフォン)端子に接続して使います。

ヘッドフォンを使うとクラビノーバのスピーカーからは音が出ません。1人で演奏するばかりではなく2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。耳をあまり刺激しないように適度な音量でご使用ください。



付属品 (お確かめください。)

●ディスク・オーケストラ・コレクション



ミュージック・ディスク

ミュージック・ブック

●取扱説明書(本書)



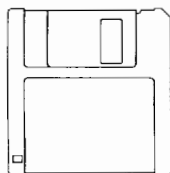
●ディスク・スタイル



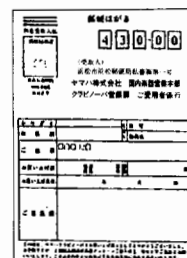
●保証書



●録音用ディスク(空きディスク)



●ご愛用者カード

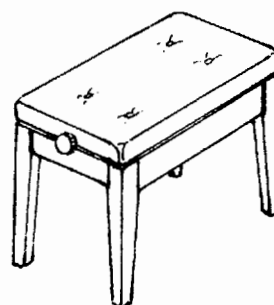


●音色/スタイル・リスト・シート

3-12 ON THE PAVILION	18. SWING BALLAD	24. FRODO	30. BIRD	36. BAMB	42. POLA	48. YOUNG WALTZ
13. BIRD	19. FUNK	25. FUNK	31. BIRD	37. BAMB	43. BIRD	49. BAMB
14. ROCK BAND	20. SWING BOAT	26. SWING	32. BIRD	38. BAMB	44. BIRD	50. COUNTRY WALTZ
15. JAZZ ROCK	21. SWING SHUFFLE	27. SWING	33. BIRD	39. BAMB	45. BIRD	51. COUNTRY WALTZ
16. JAZZ ROCK	22. COUNTRY	28. SWING	34. BIRD	40. BAMB	46. BIRD	52. COUNTRY WALTZ
17. BIRD	23. COUNTRY	29. SWING	35. BIRD	41. BAMB	47. BIRD	53. COUNTRY WALTZ

(BEATランプの左横に立てかけてご使用ください。)

●高低自在椅子 BC-20



もくじ

CVP-89の特長	2
正しくお使いいただくために	3
ご使用前の準備	4
付属品	6
各部のなまえCVP-89	8

デモ演奏 11

デモ演奏をきいてみましょう	12
---------------------	----

演奏 15

1 音色を選ぶ	16
2 音量を調節する	17
3 キーボード・パーカッションで リズム演奏をする	18
4 リバーブ(残響)をかける	19
5 ペダルを使う	21
6 2つの音色をミックスする (デュアル機能)	23
7 鍵盤を2つのパートに分けて弾く (スプリット機能)	25
8 音程を変える(トランスポーズ)	28
9 他の楽器と音程を合わせる (ピッチ・コントロール)	29
10 演奏音の音像定位を変える(パン機能)	31
11 マイク機能を使う	32
12 レジストレーション機能を使う (パネル状態の登録)	33

伴奏スタイル (リズム、オート・ベース・コード[ABC]) ... 35

1 リズムを使って演奏する	36
・リズムを選ぶ	36
・テンポ(速さ)を調節する	37
・リズムをスタート/ストップする	38
・フィル・インを入れる	41
・リズム音量と手弾き音量の バランスをとる	42
2 メトロノームを使う	43
3 自動伴奏(オート・ベース・コード[ABC])を 使って演奏する	44
・自動伴奏の種類	44
・ABCを使って演奏する	46
・ABC音量(アカンパニメント・ボリューム) と手弾き音量のバランスをとる	48
4 ディスク・スタイルを使う	49
5 ソロ・スタイルプレイを使って演奏する	51
6 オリジナルのリズムをつくる (カスタム・リズム機能)	53

ディスク・オーケストラ 57

1 演奏をきく	58
2 ディスク・オーケストラといっしょに演奏する	60
3 ガイド・ランプに合わせて練習する (ガイド機能)	62
4 フレーズを繰り返し演奏する (フレーズ・リピート機能)	65
5 フレーズの範囲を指定してリピート練習する (A-Bリピート機能)	67

フロッピー・ディスクについて 69

フロッピー・ディスクの取り扱い	70
フロッピー・ディスクのフォーマット(初期化) ...	72

パフォーマンス・メモリー 73

ソングの構成について	74
演奏を録音/再生する	74
ABC/ソロ・スタイルプレイで録音する	76
コード・シーケンスで録音する	78
多重録音をする	80
フロッピー・ディスクの編集	83
録音/再生のヒント	88

応用機能

(ユーティリティ、その他) 93

他の機器と接続する	94
応用機能(ユーティリティ・ファンクション)	95
その他の便利な機能	112

MIDI機能でステップアップ 117

MIDIとは	118
MIDIシステムのセットアップ	119
MIDI機能の設定	120
一般的なMIDIデータの再生	123
MIDIデータ・フォーマット	124
MIDIインプリメンテーション・チャート	131

資料 133

各音色の推奨音域	134
最大同時発音数	136
エラー・メッセージ	137
故障かな?と思ったら	138
クイック・オペレーション・ガイド	139
音色/伴奏スタイル一覧表	150
ドラム・キット・リスト	154
フィンガード・コード/ シングル・フィンガー・コード一覧表	156
CVP-89の組み立て方	159
仕様	161
オプション(別売品)のご紹介	162
索引	163
ディスク・オーケストラ・コレクション(D.O.C.) 曲目索引	165
サービスと保証	174



デモ演奏



演奏



伴奏スタイル(リズム、
オート・ベース・コード
[ABC])



ディスク・
オーケストラ



フロッピー・
ディスクについて



パフォーマンス・
メモリー



応用機能
(ユーティリティA/B、
その他)

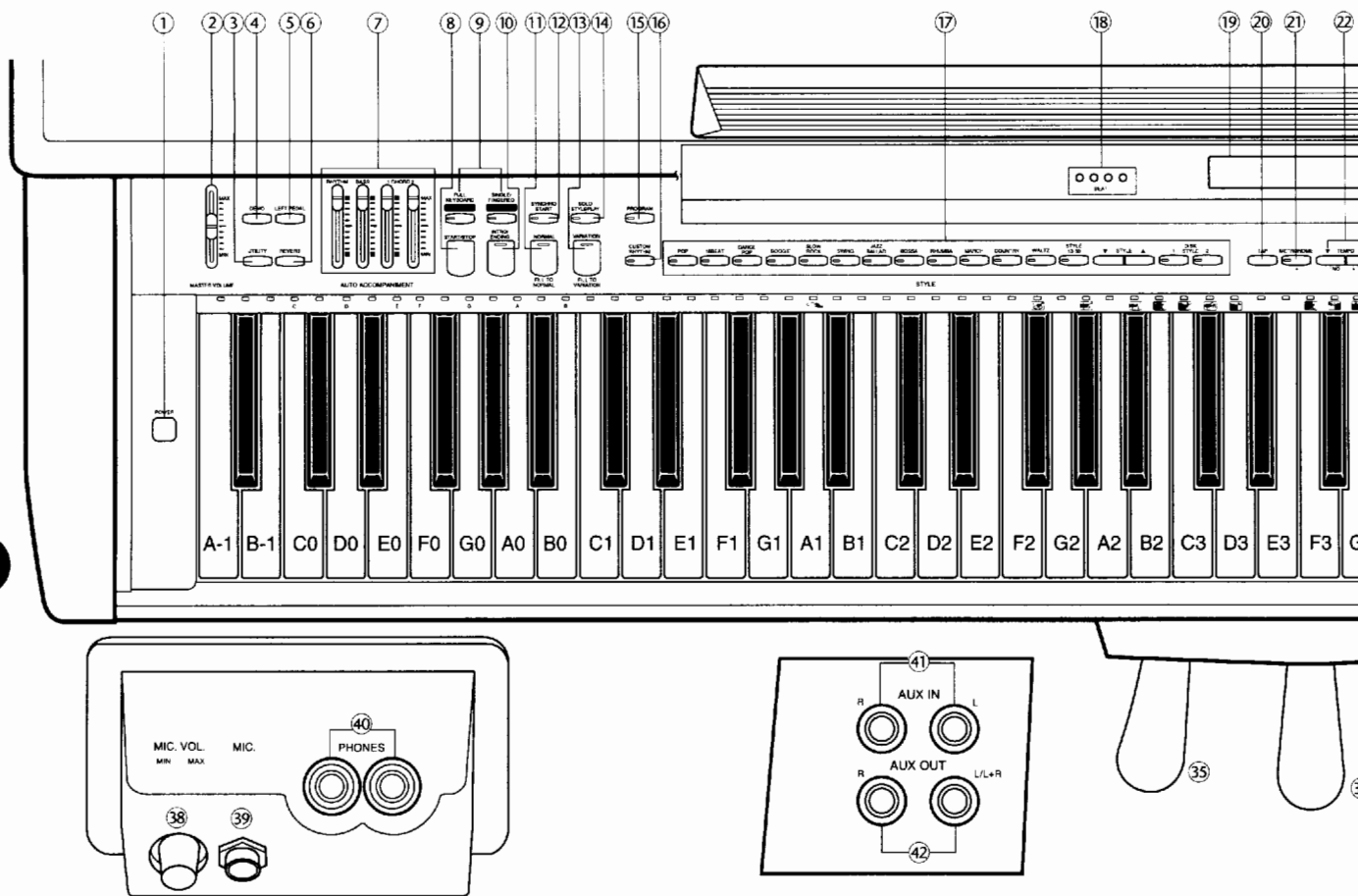


MIDI機能で
ステップアップ



資料

各部の名前



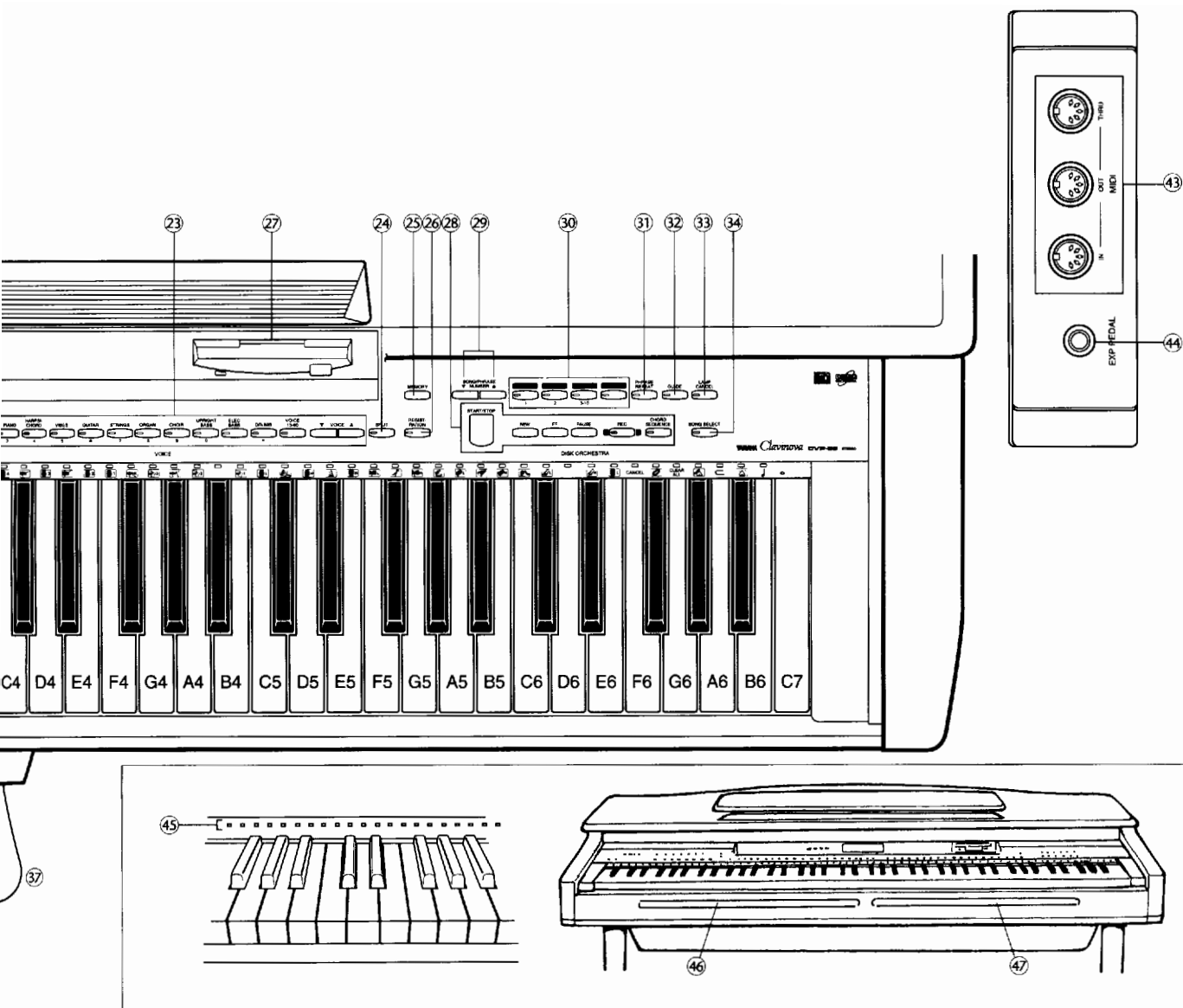
8

- ① POWER (電源スイッチ) (→P4)
- ② MASTER VOLUME (マスター・ボリューム) (→P17)
- ③ [UTILITY (ユーティリティ)] ボタン (→P95)
- ④ [DEMO (デモ)] ボタン (→P13)
- ⑤ [LEFT PEDAL] (レフト・ペダル) ボタン (→P22)
- ⑥ [REVERB (リバーブ)] ボタン (→P19)

スタイル(リズム、オート・ベース・コード[ABC])
のコントロール

- ⑦ [RHYTHM (リズム)] ボリューム (→P42)
- [BASS (ベース)] ボリューム (→P48)
- [CHORD 1, 2 (コード 1, 2)] ボリューム (→P48)
- ⑧ [START/STOP (スタート/ストップ)] ボタン (→P38)
- ⑨ [FULL KEYBOARD, SINGLE/FINGERED
(フル・キーボード、シングル/フィンガード)] ボタン (→P46)

- ⑩ [INTRO/ENDING (イントロ/エンディング)] ボタン
(→P39)
- ⑪ [NORMAL/FILL TO NORMAL
(ノーマル/フィル・トゥー・ノーマル)] ボタン (→P41)
- ⑫ [SYNCHRO START (シンクロ・スタート)] ボタン (→P40)
- ⑬ [VARIATION/FILL TO VARIATION
(バリエーション/フィル・トゥー・バリエーション)] ボタン
(→P41)
- ⑭ [SOLO STYLEPLAY (ソロ・スタイル プレイ)] ボタン
(→P51)
- ⑮ [PROGRAM (プログラム)] ボタン (→P53)
- ⑯ [CUSTOM RHYTHM (カスタム・リズム)] ボタン (→P56)
- ⑰ STYLE (スタイル) ボタン (→P36)
- ⑱ BEAT (ビート) ランプ (→P38)
- ⑲ LCD (液晶ディスプレイ) (→P16)
- ⑳ [TAP (タップ)] ボタン (→P37)



- ②① [METRONOME (メトロノーム)] ボタン (→P43)
- ②② TEMPO (テンポ) [▼] [▲] ボタン (→P37)
- ②③ VOICE (音色) ボタン (→P16)
- ②④ [SPLIT (スプリット)] ボタン (→P25)
- ②⑤ [MEMORY (メモリー)] ボタン (→P33)
- ②⑥ [REGISTRATION (レジストレーション)] ボタン (→P34)

ディスク・オーケストラ/パフォーマンス・メモリーのコントロール

- ②⑦ 3.5"DISK (ディスク) 挿入口 (→P70)
- ②⑧ DISK ORCHESTRA/PERFORMANCE MEMORY (ディスク・オーケストラ/パフォーマンス・メモリー) コントロール・ボタン (→P57,73)
- ②⑨ SONG/PHRASE NUMBER (ソング/フレーズ・ナンバー) [▼] [▲] ボタン (→P58)
- ③⑩ パート選択ボタン (→P58)

- ③① [PHRASE REPEAT (フレーズ・リピート)] ボタン (→P66)
- ③② [GUIDE (ガイド)] ボタン (→P63)
- ③③ [LAMP CANCEL (ランプ・キャンセル)] ボタン (→P58)
- ③④ [SONG SELECT (ソング・セレクト)] ボタン (→P58)
- ③⑤ ソフト・ペダル (→P22)
- ③⑥ ソステヌート・ペダル (→P21)
- ③⑦ ダンパー・ペダル (→P21)
- ③⑧ MIC.VOL. (マイク・ボリューム) (→P32)
- ③⑨ MIC. (マイク) 端子 (→P32)
- ④① PHONES (ヘッドフォン) 端子 (→P5)
- ④② AUX IN端子 (→P94)
- ④③ AUX OUT端子 (→P94)
- ④④ MIDI端子 (→P119)
- ④⑤ EXP PEDAL (エクスプレッション・ペダル) 端子 (→P42)
- ④⑥ 鍵盤ガイド・ランプ (→P63)
- ④⑦ フィル・イン・バー 左 (→P41)
- ④⑧ フィル・イン・バー 右 (→P41)



デモ演奏



デモ演奏をきいてみましょう

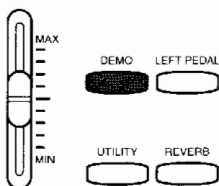
CVP-89には音色紹介用に13曲伴奏スタイル紹介用に12曲、計25曲のデモ演奏が入っています。きいてみましょう。

■STYLE = 音楽のスタイル

■VOICE = 音色

1 スタンバイする

[DEMO]を押すと、STYLEボタンとVOICEボタンのランプが点滅し、デモ演奏がスタンバイされます。



MASTER VOLUME

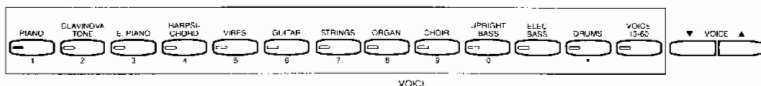
DEMO SONG
SELECT VOICE OR STYLE

2 デモ演奏をスタートする

次の3つの方法があります。

A. 音色紹介用の1曲をきく

ききたい音色のVOICEボタンを押します。デモ演奏がスタートし、演奏が終わるとスタンバイの状態に戻ります。

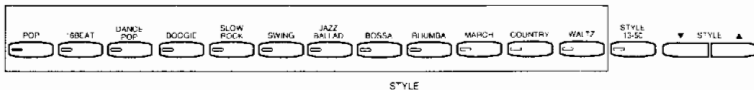


DEMO SONG
Piano Voice

音色名の表示

B. 伴奏スタイル紹介用の1曲をきく

ききたい伴奏のSTYLEボタンを押します。デモ演奏がスタートし、演奏が終わるとスタンバイの状態に戻ります。

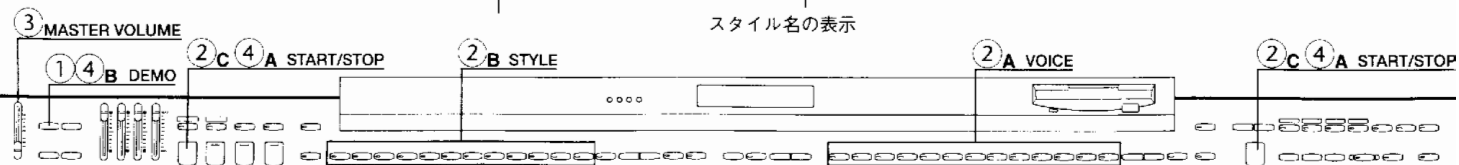


DEMO SONG
Pop Style

スタイル名の表示

■途中で止めたいとき...

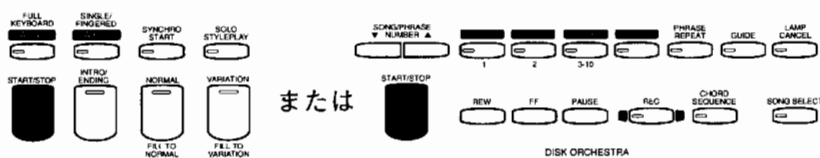
演奏中のVOICE/STYLEボタンを押すと、スタンバイの状態に戻ります。





C. 全曲を続けていく (全曲リピート演奏)

[START/STOP]を押します。



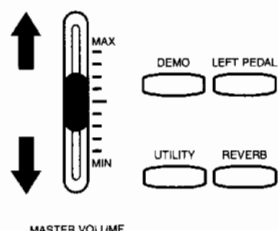
または

全曲が順番に演奏され、ストップするまで何度も繰り返し演奏されます。

3

音量を調節する

[MASTER VOLUME]で音量を調節します。



MASTER VOLUME

■ランダム演奏させたいとき…

デモ演奏をスタンバイする前に、応用機能UTIL37でランダム演奏ONにすると、全曲をランダム (順不同) にリピート演奏させることもできます。
→応用機能UTIL37 (P108)

■演奏中に曲を飛ばしてききたいとき…

別の曲のVOICE/STYLEボタンを押すと、その曲が演奏されます。全曲リピート演奏の場合はその曲まで先送りされ、そこからリピート演奏を続けます。

■MASTER VOLUME = 全体音量

■デモ演奏のテンポは変更できません。

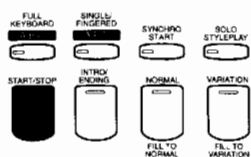
4

デモ演奏をストップする

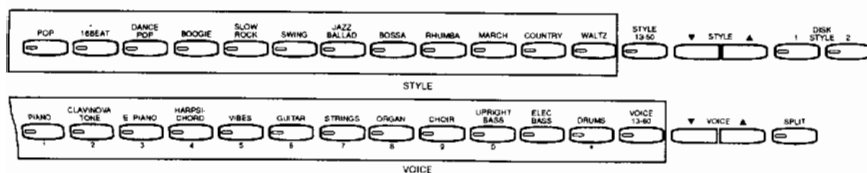
次の2つの方法があります。

A. [START/STOP]か 演奏中のVOICEボタン/STYLEボタンを押す

演奏が止まり、スタンバイの状態に戻ります。

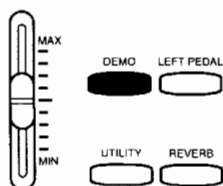


または



B. [DEMO]を押す

演奏が止まり、通常の状態に戻ります。



MASTER VOLUME



デモ曲一覧表

ピアノ	F.F.ショパン	練習曲作品25-1 「エオリアン・ハーブ」(別名「牧童の笛」)
クラビノーバ・トーン	D.フォスター	ウォーター・ファウンテン(「摩天楼はバラ色に」より)
ハーブシコード	J.S.バッハ	イタリヤ協奏曲BWV971第3楽章
ギター	I.アルベニス	アストゥリアス
ストリングス	A.ビバルディ	合奏協奏曲「四季」より「秋」第1楽章
オルガン	J.S.バッハ	カンタータ第29番よりシンフォニア
クワイア	W.A. モーツァルト	「レクイエム」より「涙の日」

上記のデモ・ソング(ピアノ以外) はいずれも原曲からの抜粋です。
その他はいずれもヤマハ(株) によるオリジナル曲です。



演奏

このセクションでは最も基本的な音色選択をはじめとして、ペダル操作、また演奏を盛り上げるさまざまな効果や機能について説明します。

1. 音色を選ぶ 16
2. 音量を調節する 17
3. キーボード・パーカッションで
リズム演奏をする 18
4. リバーブ(残響)をかける 19
5. ペダルを使う 21
6. 2つの音色をミックスする(デュアル機能) ... 23
7. 鍵盤を2つのパートに分けて弾く
(スプリット機能) 25
8. 音程を変える(トランスポーズ) 28
9. 他の楽器と音程を合わせる
(ピッチ・コントロール) 29
10. 演奏音の音像定位を変える(パン機能) .. 31
11. マイク機能を使う 32
12. レジストレーション機能を使う
(パネル状態の登録) 33



1. 音色を選ぶ

■各音色のご紹介…

音色／伴奏スタイル一覧表 (→P150)
をご参照ください。

■音色ナンバー12[DRUMS]について…

音色ナンバー12[DRUMS]を選ぶとキーボード・パーカッション用の打楽器音色が各鍵盤に割り当てられます。
(→P18)

■LCDディスプレイには、音色名、音色ナンバーの他に、スタイル名、スタイルナンバー、テンポ、スタイル再生時の小節ナンバーが表示されています。

■[VOICE 13-60]を押すと…
その他の音色の中から、前回選ばれていた音色が選ばれます。

■電源を入れたときは…
[VOICE 13-60]を押すと、音色ナンバー13「BRASS」になります。

■[▼][▲]を両方同時に押すと…
音色ナンバー13「BRASS」に戻ります。

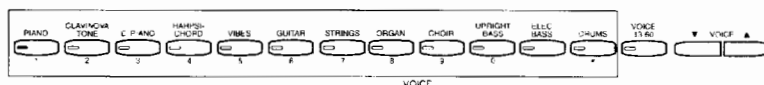
■音色ナンバーをはやくアップ／ダウンさせたいとき…

[▼]または[▲]を押し続けるとナンバーが連続的に変化します。

CVP-89にはパネルに表示されている基本12音色と、その他の音色として48種類、合計60種類の音色が用意されています。好きな音色を選んで演奏してみましょう。

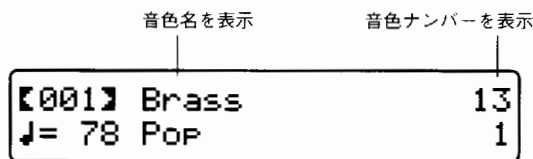
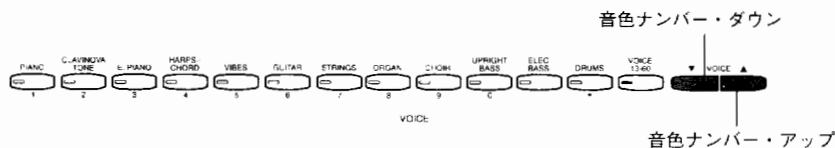
A. 基本12音色 (1-12) を選ぶ

使いたい音色のVOICEボタンを押します。



B. その他の音色 (13-60) を選ぶ

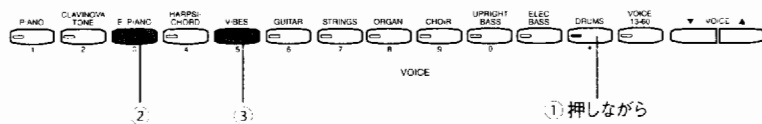
[VOICE13-60] の右側にある[▼][▲]を押してナンバーを選びます。





C. 二桁の数字で指定する

[DRUMS]を押しながらVOICEボタン[1]-[0]でナンバーを選びます。たとえば、音色ナンバー35の「PIANO SOFT」を選ぶときは[DRUMS]を押しながらボイスボタン[3]を押し、続けて[5]を押します。



■各音色の推奨音域…

CVP-89で演奏するときに、各音色にはそれぞれ音楽的に推奨される音域があります。

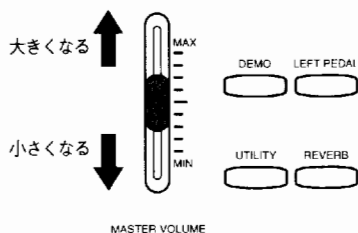
→各音色の推奨音域 (→P134)

■最大同時発音数について…

P136をご覧ください。

2. 音量を調節する

[MASTER VOLUME] で音量を調節します。



■エクスプレッション・ペダルについて…

CVP-89では別売のエクスプレッション・ペダル (EP-1) で演奏しながら音量をコントロールし、演奏に表情をつけることもできます。(→P42)



3. キーボード・パーカッションでリズム演奏をする

■ノーマル・キットとプロセスト・キットについて…

そのとき選ばれているスタイルで使われているキットが、キーボード・パーカッションでも鳴ります。下記のスタイルの場合はプロセスト・キットになり、それ以外のスタイルの場合はノーマル・キットになります。

- ・No. 3 DANCE POP.
- ・No. 23 TECHNO POP

[ディスク・スタイル]

- ・No. 13 ニューエイジ
- ・No. 14 コンピュータゲーム
- ・No. 29 時計

ただし、スタイルによって一部の楽器だけ他方のキットが使われているものもあります。

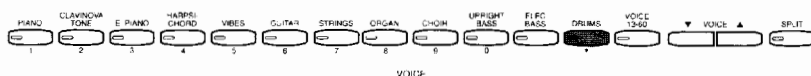
■応用機能UTIL40で、キットの切り換えや個々の打楽器音のエディットができます。→応用機能UTIL40 (P109)

■プロセスト・キットのリストはP154をご覧ください。

音色の[DRUMS]を選ぶと鍵盤にそれぞれ打楽器が割り当てられます。それらの鍵盤をたたいてリズム演奏ができます。

1 打楽器音色を選ぶ

[DRUMS]を押します。

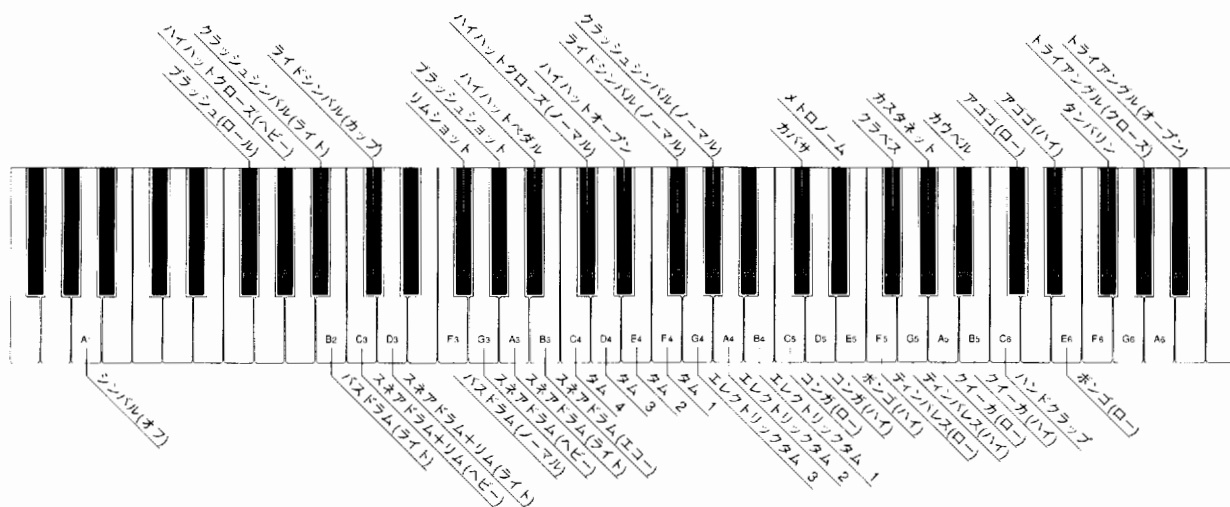


【001】 Drums 12
J= 78 Pop 1

CVP-89は、ドラムスの楽器の種類と鍵盤への割り当て方について、2種類(ノーマル・キットとプロセスト・キット)を持っています。詳しくは左欄のノートをご覧ください。

ノーマル・キットの場合、44種類の打楽器音がパネルのイラストに対応した鍵盤にそれぞれ割り当てられます。

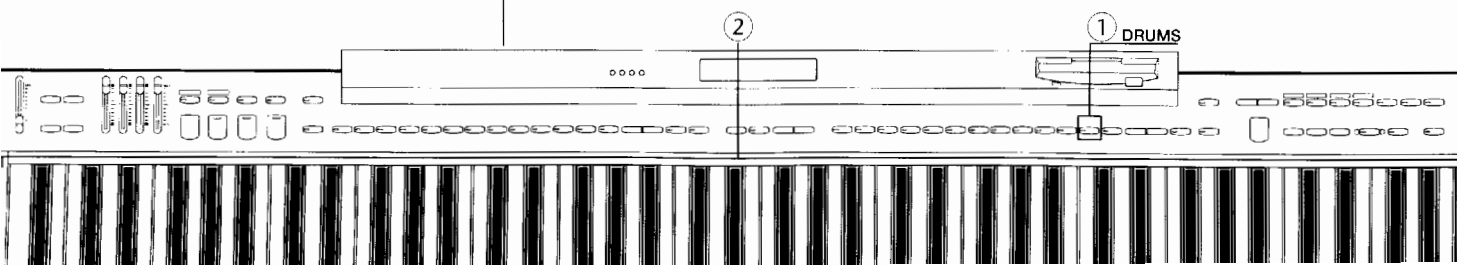
(ノーマル・キット)



■割り当てのない鍵盤は…
たたいても音が出ません。

2 演奏する

割り当てられている鍵盤をたたいて演奏します。





シンバル等の響く音を途中でミュートする(消す)には

シンバルやトライアングルのように減衰時間の長い音を途中で切ることによって、リズムにめりはりを付けたり衝撃的な効果演出することができます。

■シンバル音にはクラッシュ・シンバル(ライト)[A#2]、ライド・シンバル(カップ)[C#3]、ライド・シンバル[F#4]、クラッシュ・シンバル[G#4]の4種類がありますが、いずれもシンバル・オフ[A1]の鍵盤を押すと、音を途中で切ることができます。

■ハイハット・オープン[D#4]の音はハイハット・クローズ(ヘビー)[G#2]、ハイハット・クローズ(ノーマル)[C#4]またはハイハット・ペダル[A#3]の音でミュートできます。

■ブラッシュ(ロール)[F#2]の音はブラッシュ(ショット)[G#3]の音でミュートできます。

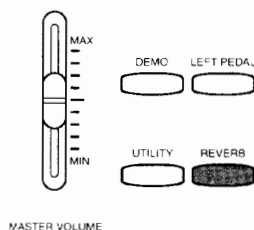
■トライアングル(オープン)[A#6]の音はトライアングル(クローズ)[G#6]の音でミュートできます。

4. リバーブ(残響) をかける

リバーブとは残響のことで、コンサート・ホールなどで演奏しているような臨場感を味わうことができます。CVP-89では4種類のリバーブ効果を好みの深さ(効果の割合)でかけることができます。

1 リバーブの種類と深さを確認します。

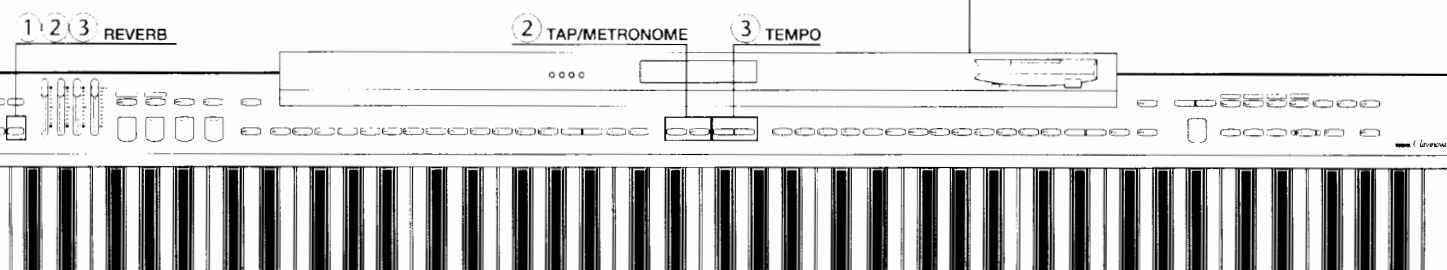
[REVERB]を押している間、現在設定されているリバーブの種類と深さがLCDに表示されます。



REVERB
TYPE: ROOM DEPTH: 8

リバーブの種類

リバーブの深さ





■ちょっと覚えておこう…

同じリバーブでも音色によっては効果が深く(強く)感じたり、浅く(弱く)感じたりするものです。なお、AUX IN 端子から入力した音には効果はかかりません。

■標準値に戻す…

[REVERB]を押しながら、TEMPO[▼]と[▲]を同時に押すと標準値の8に戻ります。

■あとで役に立つ知識…

*[RHYTHM]、[CHORD 1]、[CHORD 2]、[BASS]パートごとに深さを設定することもできます。

→応用機能UTIL34 (P107)

*パフォーマンス・メモリーでは、トラックごとに深さを設定することもできます。(→P88)

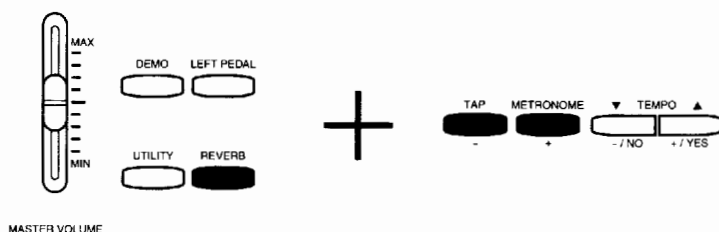
■電源を入れたときは…

リバーブの種類は「ルーム」、深さは標準値の8に設定されます。

2 リバーブの種類を選びます。

[REVERB]を押しながら[TAP]/[METRONOME]を押すことにより、リバーブの種類が切り換わります。

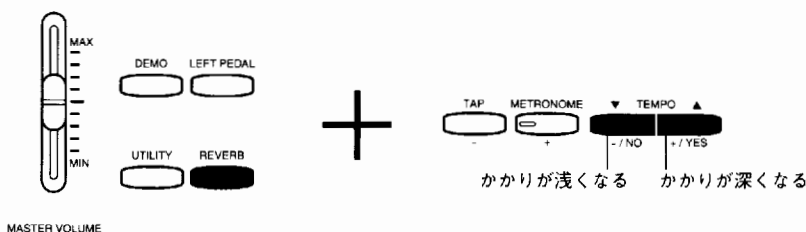
または、リバーブの画面がLCDに出ている間に、[REVERB]を繰り返し押して切り換えることもできます。



- ROOM (ルーム) : 部屋の中で弾いたときのような響きになります。
 HALL 1 (ホール1) : 小さなコンサート・ホールで弾いたときのような響きになります。
 HALL 2 (ホール2) : 大きなコンサート・ホールで弾いたときのような響きになります。
 COSMIC (コズミック) : 音が左右に揺れ動くような響きが加わります。
 OFF (オフ) : リバーブはかかりません。

3 リバーブの深さを設定する

[REVERB]を押しながらTEMPO[▼][▲]を押すことにより、深さを設定します。

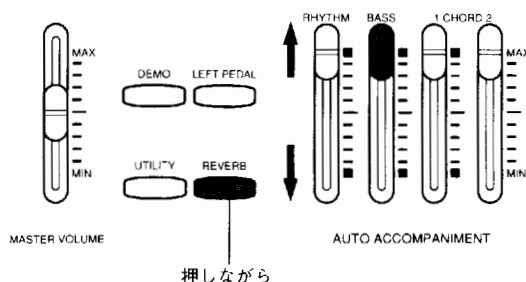


REVERB
TYPE: ROOM DEPTH: 10

0から15の範囲で設定でき、標準値は8です。

手弾き音だけのリバーブの深さを設定する

[REVERB]を押しながら[BASS]を動かすことにより、手弾き音だけのリバーブの深さを設定することができます。

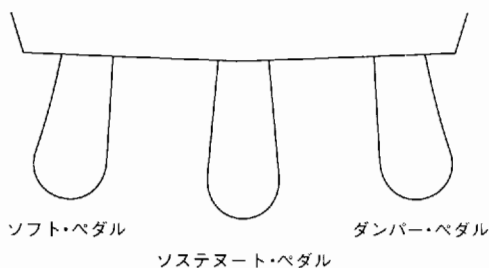


【001】 Piano 1
♩= 78 MANUAL REV. 64

0から127の範囲で設定でき、標準値は64です。

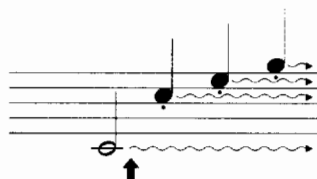
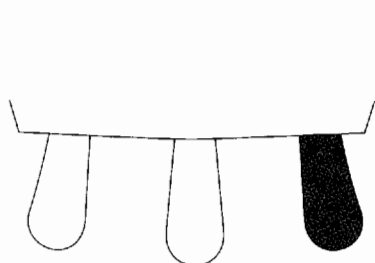
5. ペダルを使う

CVP-89には3本のペダルがついています。



ダンパー・ペダル（右のペダル）

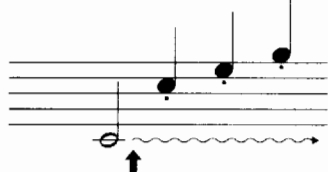
このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。



ここでダンパー・ペダルを踏むと、
このとき押えていた鍵盤とそのあと
弾いた音すべてに余韻がつく

ソステヌート・ペダル（まん中のペダル）

このペダルを踏んだときに押えていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌート・ペダルを
踏むと、このとき押えていた鍵
盤の音だけに余韻がつく

■ダンパー・ペダルは連続可変式（踏み込むほど余韻が長くなる）になっています。これをON/OFFスイッチ式にすることもできます。
→応用機能UTIL38 (P108)

■CVP-89では、[PIANO]音色（音色ナンバー1）のときに響板の響きをシミュレートした共鳴効果がかかります。さらにダンパー・ペダルを踏んだときには共鳴弦の響きも加わります。これらの共鳴効果のデプス（かかり具合）を好みに応じて調節することもできます。
→応用機能UTIL03 (P96)

■ソロ・スタイルプレイ中はソステヌート・ペダルは効きません。



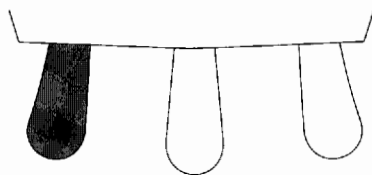
■ソフト・ペダルは連続可変式で、踏み込むほど音量や音質が微妙に変化していきます。

■ダンパー／ソステヌート／ソフト・ペダルとも「DRUMS」音色には効きません。

■[LEFT PEDAL]を押しながら[TEMPO] [▼][▲]で切り換えることもできます。

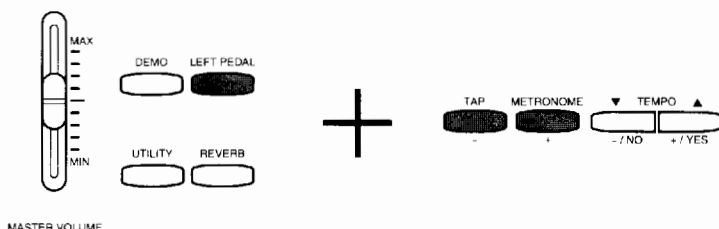
ソフト・ペダル（左のペダル）

このペダルを踏むと、音量がわずかに下がり、音の響きが柔らかくなります。このペダルは、他のいろいろな機能に使うこともできます。



左のペダルの機能を切り換える

[LEFT PEDAL]を押しながら[TAP]/[METRONOME]を押すことにより、左のペダルの機能が切り換わります。LCDに機能名が表示されます。または、LEFT PEDAL FUNCTIONの画面がLCDに出ている間に、[LEFT PEDAL]を繰り返し押すことでも設定できます。



LEFT PEDAL FUNCTION
SOFT PEDAL

SOFT PEDAL（ソフト・ペダル）：

ソフト・ペダルになります。電源を入れたときはいつもこれになります。

START/STOP（スタート／ストップ）：

[START/STOP]ボタンと同じ機能になります。（→P39）

*フレーズマークが設定されているDOCの再生中に踏むと、次のフレーズの先頭で待機状態になります。（→P65）

RHYTHM BREAK（リズム・ブレイク）：

リズム再生中にこのペダルを踏むと、リズム（ABC）がブレイクし（空白になる）、次の小節の頭で自動的にブレイクが解除されます。また、踏み続けると、次の小節の頭でもブレイクは解除されず、離れたあとの次の小節の頭で解除されます。ブレイク中にもう一度踏むと、ブレイクは解除されます。

SOLO STYLEPLAY（ソロ・スタイルプレイ）：

[SOLO STYLEPLAY]がONのとき、ソロ・スタイルプレイのON/OFFがこのペダルでできます。[SOLO STYLEPLAY]がOFFのときは選べません。（→P52）

PITCH BEND（ピッチ・ベンド）：

手弾き音色のピッチ・ベンドがコントロールできます。左のペダルでピッチを下げることができ、まん中のペダルでピッチを上げることができます。なお、ピッチ・ベンド幅はあらかじめ音色ごとに設定されていますが、ユーティリティ機能UTIL39（→P109）でそれぞれ変更することができます。



6. 2つの音色をミックスする(デュアル機能)

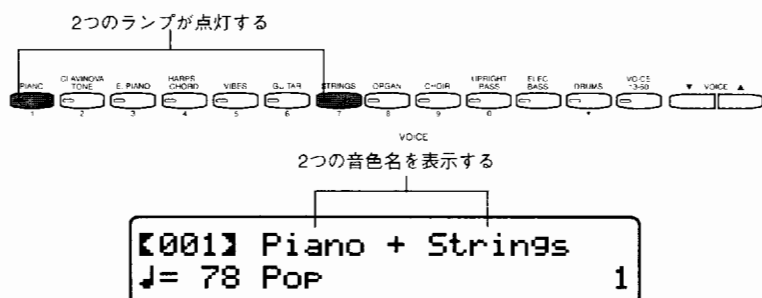
1つの音色を選んで演奏するだけでなく、2つの音色を重ねて演奏することもできます。ソロやサビなどで厚みのある音がほしいときなどたいへん効果的です。また、2つの音色の音量バランスも変えられます。

■デュアル機能とスプリット機能は同時には使えません。

組み合わせを選ぶ

A. 基本12音色どうしの組み合わせ

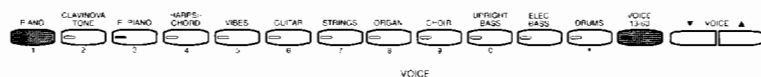
組み合わせたい2つのVOICEボタンを同時に押します。



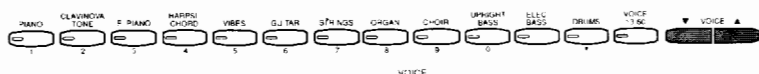
■[DRUMS]音色とのデュアルはできません。

B. 基本12音色とその他の音色(13-60)の組み合わせ

1 組み合わせたいVOICEボタンと[VOICE13-60]を押します。



2 VOICE[▼][▲]を押して、その他の音色(13-60)の1つを選びます。

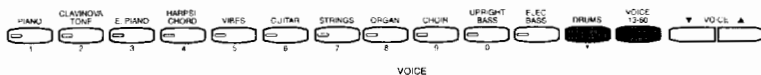


■1音色の状態に戻すには…
1音色だけを選んでください。([▼][▲]
以外のVOICEボタンを押します。)



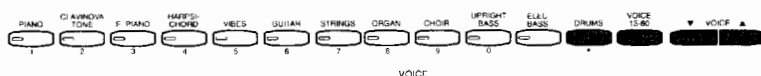
C. その他の音色 (13-60) どうしの組み合わせ

1 [DRUMS]と[VOICE13-60]を同時に押します。



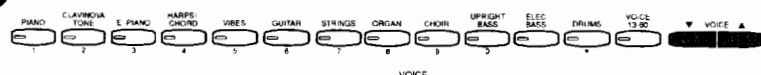
【001】 PopBrass+Brass
♪= 78 Pop 1

2 [DRUMS]と[VOICE13-60]を同時に押しながらVOICE [▼][▲]を押して、その他の音色のひとつ(左側の表示)を選びます。



【001】 Trumpet +Brass
♪= 78 DUAL BALANCE 8

3 VOICE[▼][▲]を押して、もう一つのその他の音色(右側の表示)を選びます。



【001】 Trumpet +Mute Trp
♪= 78 Pop 1

2つの音色の音量バランスを設定する

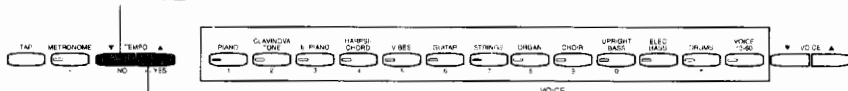
■電源を入れたときは…

同じ音量(標準値の8)になっています。

■バランスを同じ音量(8)に戻す…

2つのVOICEボタン(またはVOICEボタンと[VOICE13-60]または[DRUMS]と[VOICE13-60])を同時に押しながらTEMPO[▼][▲]を同時に押します。

LCD左側の音色の音量が大きくなる



LCD右側の音色の音量が大きくなる

【001】 Piano + Strings
♪= 78 DUAL BALANCE 7

【001】 Piano + Strings
♪= 78 DUAL BALANCE 1

【001】 Piano + Strings
♪= 78 DUAL BALANCE 8

【001】 Piano + Strings
♪= 78 DUAL BALANCE 15

LCDを見ながら1~15の範囲で音量バランスを設定できます。

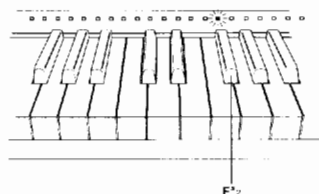
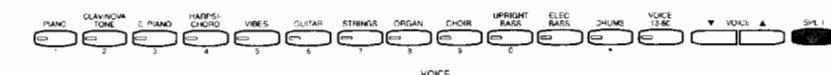


7. 鍵盤を2つのパートに分けて弾く (スプリット機能)

鍵盤を好きな位置で低音部と高音部に分け、別々の音色を演奏することができます。

スプリット機能をONにする

[SPLIT]を押します。



スプリット・ポイント(低音部と高音部の境となる鍵盤)の鍵盤ガイドランプがつく

スプリット・ポイントより左側の音色を表示する

【001】 Up Bass /Piano
J= 78 Pop 1

スプリット・ポイントより右側の音色を表示する

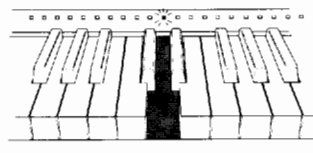
スプリット・ポイントを設定する

低音部と高音部は好きな位置(鍵盤)で分けることができます。

[SPLIT]を押しながら、スプリット・ポイントにしたい鍵盤を押して指定します。(スプリット・ポイントの鍵盤は低音部に含まれます)。



スプリット・ポイントの鍵盤ガイドランプがつく



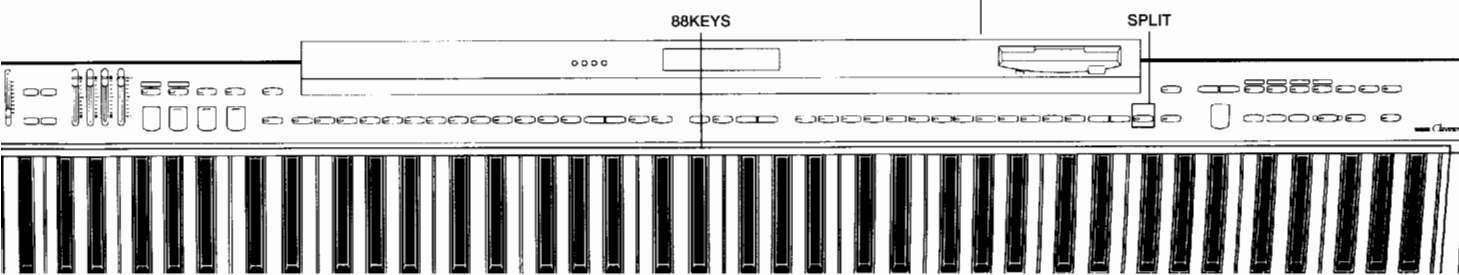
【001】 E.Bs S1P/Harpsi.
J= 78 SPLIT POINT D2

操作中、LCDにスプリット・ポイントの鍵盤名が表示されます。

■スプリット機能とデュアル機能は同時には使えません。

■最初の設定は…

電源を入れたときは、スプリット・ポイントはF#2です。低音部には「UPRIGHT BASS」の音色が、高音部にはスプリット機能をONしたときに選ばれていた音色が割り当てられます。



■スプリット以下のオクターブ・アップについて…
低音部に[DRUMS (音色No.12)]、[BASS (音色No.10, 11, 49, 50, 51, 52)]以外の音色が選ばれた場合は、自動的に1オクターブ高い音で出ようになっています。これをもとの音程に戻すこともできます。
→応用機能UTIL41 (P110)

■電源を入れたときは…
同じ音量 (標準値の8) になっています。

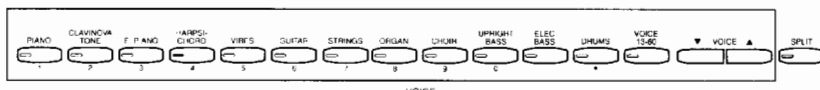
■バランスを同じ音量(8)に戻す…
[SPLIT]を押しながら、TEMPO[▼][▲]を同時に押します。

それぞれの音色を選ぶ

低音部と高音部にそれぞれ好きな音色を割り当てられます。

1 高音部の音色を選ぶ

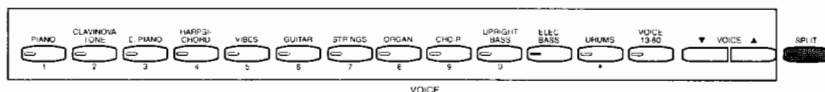
通常の音色選択(→P16)と同じようにVOICEボタンや[VOICE13-60]で選びます。



【001】 Up Bass /Harpsi.
♩= 78 Pop 1

2 低音部の音色を選ぶ

[SPLIT]を押しながら、VOICEボタンや[VOICE13-60]で選びます。

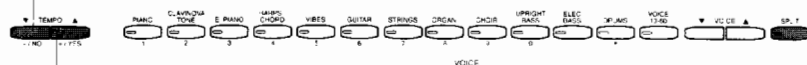


【001】 E. Bs S1P/Harpsi.
♩= 78 Pop 1

音量バランスを設定する

[SPLIT]を押しながら、TEMPO[▼][▲]で設定します。

低音部の音量が大きくなる



高音部の音量が大きくなる

【001】 E. Bs S1P/Harpsi.
♩= 78 SPLIT BALANCE 7

【001】 E. Bs S1P/Harpsi. ♩= 78 SPLIT BALANCE 1 ← 【001】 E. Bs S1P/Harpsi. ♩= 78 SPLIT BALANCE 8 → 【001】 E. Bs S1P/Harpsi. ♩= 78 SPLIT BALANCE 15

LCDを見ながら1~15の範囲で音量バランスを設定できます。



ダンパー・ペダルの効く範囲を設定する

ダンパー・ペダルの効く範囲を、高音部だけ、低音部だけ、両方、の中から選ぶことができます。

A. 高音部にだけ効くようにする

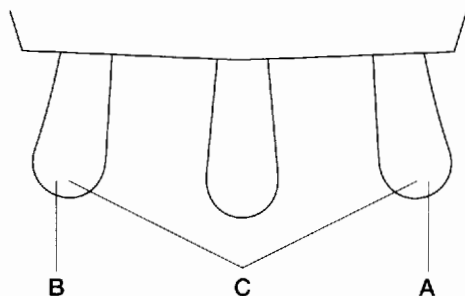
[SPLIT]を押しながら、ダンパー・ペダルを踏みます。

B. 低音部にだけ効くようにする

[SPLIT]を押しながら、レフト・ペダル(ソフト・ペダル)を踏みます。

C. 高音部、低音部ともに効くようにする

[SPLIT]を押しながら、ダンパー・ペダルとレフト・ペダル(ソフト・ペダル)の両方を踏みます。



ソフト、ソステヌートは高音部、低音部ともに効きます。

■電源を入れたときは…

高音部だけにダンパー・ペダルが効きます。

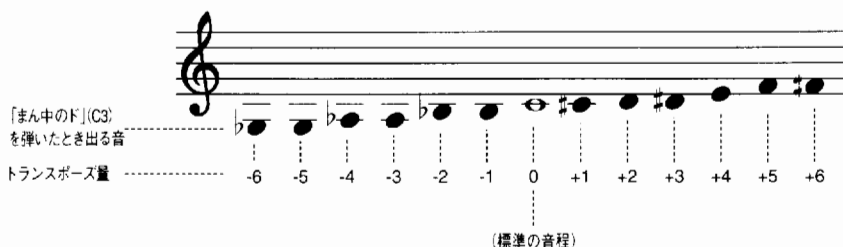


8. 音程を変える (トランスポーズ)

弾く鍵盤を変えずに、他の楽器や歌う人の声の高さにキーを合わせたり、演奏している曲を移調することができます。

トランスポーズ量について

-6半音～+6半音の範囲でトランスポーズ量を設定できます。つぎの図はまん中のド(C3)を弾いたときにトランスポーズ量によって何の音が出るかを示しています。たとえば、トランスポーズ量を"+5半音"に設定すると、ド(C3)を弾いたときにファ(F3)の音が出ることになり、言い換えればハ長調の弾き方でヘ長調の演奏ができることになります。

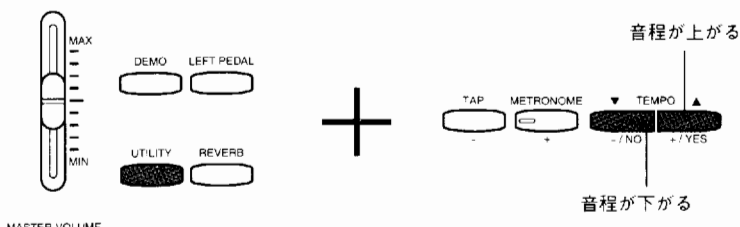


トランスポーズ量を設定する

[UTILITY]を押しながら[TAP]/[METRONOME]を何度か押してトランスポーズ設定画面を表示させてください。

そのまま[UTILITY]は押したままで、TEMPO[▼][▲]でトランスポーズ量を設定します。操作中、LCDにトランスポーズ量が表示されます。

0000▶01 TRANPOSE



0000▶01 TRANPOSE -6 ← 0000▶01 TRANPOSE 0 → 0000▶01 TRANPOSE 6

[UTILITY]を離すと元の画面表示に戻ります。

■[UTILITY]について…

[UTILITY]のボタンにはトランスポーズ以外にもさまざまな機能が割り当てられていますが、電源を入れたときはいつも最初にトランスポーズ設定画面が表示されるようになっています。
応用機能UTIL01 (→P95)

■電源を入れたときは…

標準の音程になっています。

■標準の音程に戻すには…

TEMPO[▼]と[▲]を同時に押します。

■ちょっと覚えておこう…

TEMPO[▼][▲]を0.5秒以上押し続けると、値が連続的に変化します。

■トランスポーズをかけた場合の発音域について…

トランスポーズ量によって、もとの88鍵の最高音(C7)より高い発音域は1オクターブ下の音で、もとの88鍵の最低音(A-1)より低い発音域は1オクターブ上の音で発音します。[DRUMS]音色にはトランスポーズはかかりません。



9. 他の楽器と音程を合わせる (ピッチ・コントロール)

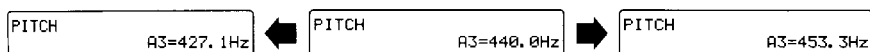
音程(ピッチ)を微調整することができます。合奏のときなどに他の楽器と音程を正確に合わせることができます。

ピッチ・コントロール量について

土約50セントの範囲を約1.2セントきざみ、または約1ヘルツきざみで設定できます(100セント=半音)。設定中はLCDにラの音(A3)の周波数(Hz:ヘルツ)が表示されます。

■周波数の表示について…

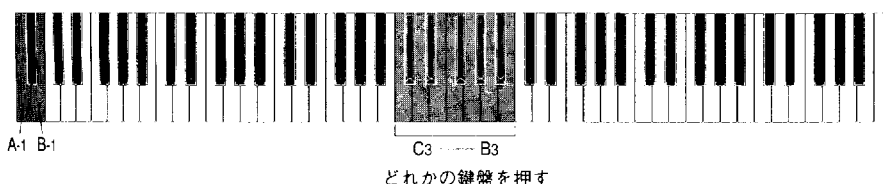
設定後は自動的に元の表示に戻ります。



1.2セントきざみの合わせ方

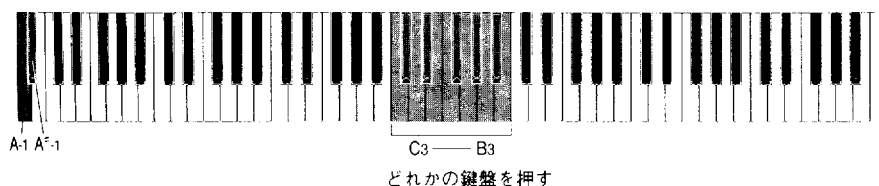
音程を上げる

一番左端の白鍵2つを同時に押しながら、C3～B3のどれかの鍵盤を押します。1回押すごとに約1.2セントずつ音程が上がります。音を聞きながらこきざみに音程を上げて他の楽器と合わせてください。



音程を下げる

一番左端の白鍵と黒鍵を同時に押しながら、C3～B3のどれかの鍵盤を押します。1回押すごとに約1.2セントずつ音程が下がります。音を聞きながらこきざみに音程を下げて他の楽器と合わせてください。





■ちょっと覚えておこう…

TEMPO[▼][▲]を0.5秒以上押し続けると、値が連続的に変化します。

■[DRUMS]音色には、ピッチ・コントロールは効きません。

■電源を入れたときは…

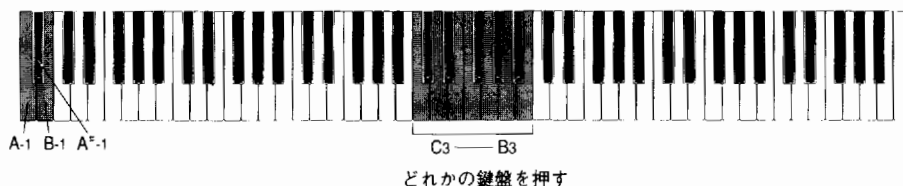
標準のA3=440Hzになっています。

■各鍵チューニングについて…

各鍵盤ごとに音程を微調整することもできます。→応用機能UTIL32 (P106)

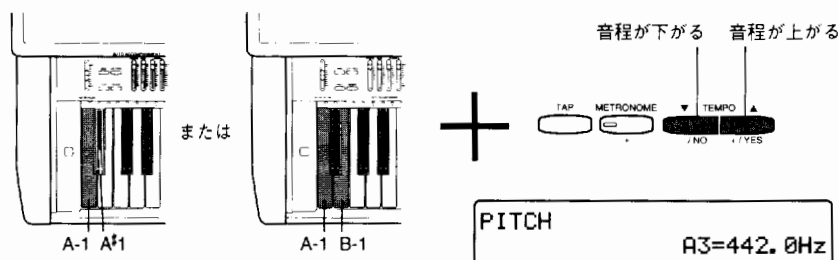
標準音程に戻す

一番左端の白鍵2つと黒鍵1つを同時に押しながら、C3～B3のどれかの鍵盤を押します。標準のA3=440Hzに戻ります。



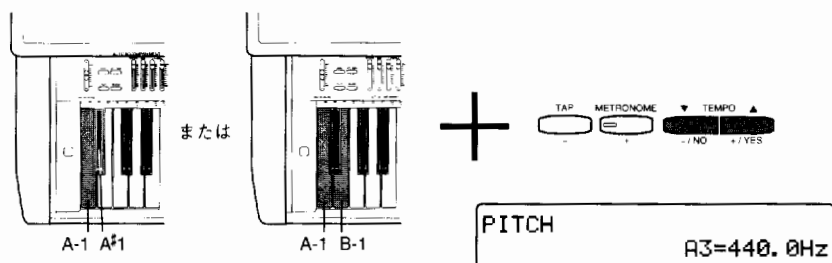
1ヘルツ(Hz)きざみの合わせ方

一番左端の白鍵と黒鍵、または一番左端の白鍵2つを同時に押しながら、TEMPO[▼]または[▲]を押すと、約1ヘルツずつ音程を上げたり下げたりすることができます。



標準音程に戻す

一番左端の白鍵と黒鍵、または一番左端の白鍵2つを同時に押しながら、TEMPO[▼]と[▲]を同時に押すと標準のA3=440Hzに戻ります。

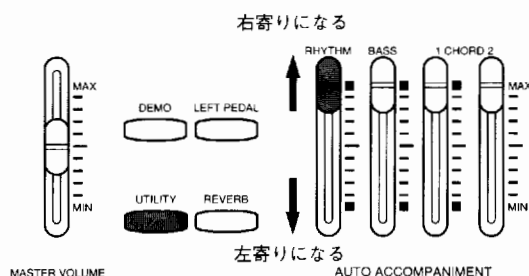




10. 演奏音の音像定位を変える (パン機能)

演奏音が左右のどのあたりから聞こえるようにするか (音像定位) を設定できます。

[UTILITY]を押しながら、[RHYTHM]ボリュームを動かして音像定位を設定します。



LCDを見ながら次の範囲で設定できます。

【001】 Piano 1
♩= 78 PAN POS. RIGHT 6 右端

【001】 Piano 1
♩= 78 PAN POS. KEYBOARD キーボード・スケール・パン

【001】 Piano 1
♩= 78 PAN POS. CENTER 中央

【001】 Piano 1
♩= 78 PAN POS. LEFT 6 左端

■あとで役に立つ知識…

パフォーマンス・メモリーで多重録音する場合、トラックごとに音像定位を変えて録音するとステレオ感のあるサウンドを作り上げることができます。

■[DRUMS]音色について…

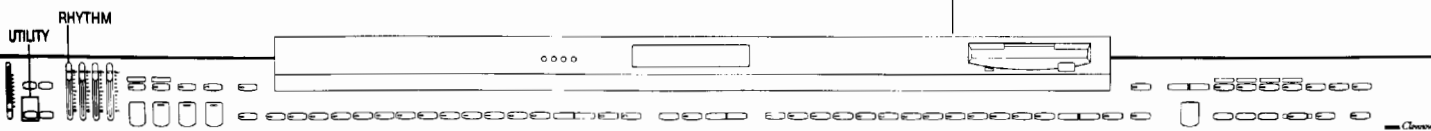
[DRUMS]音色は楽器ごとに特定の定位が設定されており、音像定位を変える操作をしても変わりません。

■ピアノ音色について…

ピアノ音色 (音色ナンバー1、34、35) と「ORGAN (音色ナンバー8)」 「FULL ORGAN (音色ナンバー28)」は、ステレオ・サンプリングの音色ですが、定位の設定を変えるとモノラル音色になります。

■電源を入れたときは…

[DRUMS]音色以外は、すべてキーボード・スケール・パン (低い音ほど左寄りから、高い音ほど右寄りから聞こえる設定) になっています。



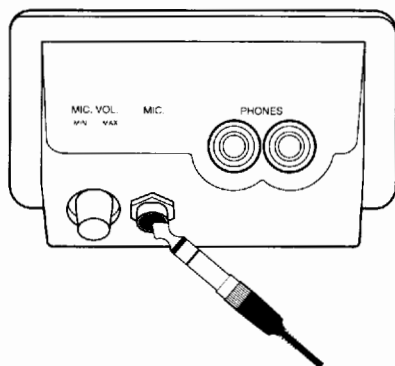


11. マイク機能を使う

お手持ちのマイクをCVP-89に接続するだけで、弾き語りをしたりABCやDOCの演奏をバックにカラオケが楽しめます。マイクから入力された音声は、演奏音と一緒にCVP-89本体のスピーカーから出力されます。

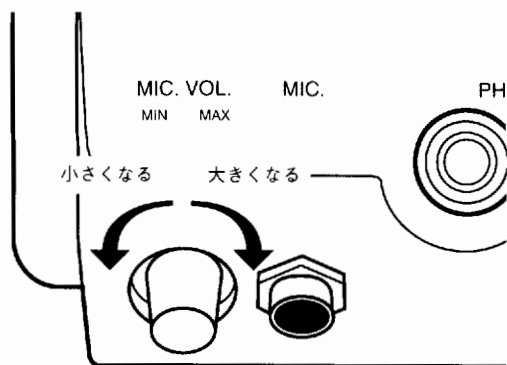
マイクを接続する

マイクをフロント・パネルの[MIC.]端子に接続します。



マイクの音量を調節する

[MIC.VOL.]を回して音量を調節します。



■マイク・リバーブについて…

マイクからの音声にはあらかじめ演奏音とは別にリバーブがかかるように設定されていますが、リバーブの深さは自由に変わることができます。

応用機能UTIL04(→P96)

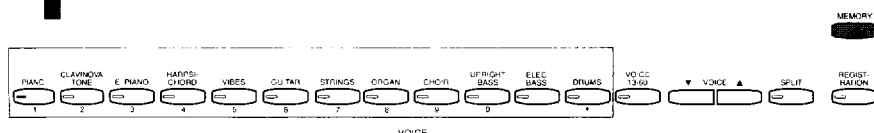
12. レジストレーション機能を使う (パネル状態の登録)

現在のパネル上の設定状態をそのまま登録しておき、好きなときに呼び出すことができます。最大で12種類の設定状態を登録することができます。

パネル状態を登録する

パネル状態は12個のVOICEボタンに登録することができます。

- 1** [MEMORY]を押しながら、パネル状態を登録したいVOICEボタンを押します。



押したVOICEボタンが緑色で点灯し、現在のパネル状態が登録されます。

なお、登録できる内容は次のとおりです。

登録される内容

- ABCのON/OFF
- ソロ・スタイルプレイのON/OFF
- ソロ・スタイルプレイのパターン
- 音色選択
- 手弾きの音量
- スタイル選択
- イントロ
- バリエーション
- テンポ
- RHYTHMボリューム
- CHORD 1ボリューム
- CHORD 2ボリューム
- BASSボリューム
- デュアル/スプリットのON/OFF
- スプリット・ポイント
- デュアル/スプリット時の音色
- デュアル/スプリット時の2音色の音量バランス
- リバーブの選択
- リバーブの深さの設定
- レフト・ペダル・ファンクションの選択
- タッチ感度
- ピッチベンド・レンジ (選ばれている音色についてのみ)
- コーラスON/OFF (選ばれている音色についてのみ)
- 共鳴効果デプス

■工場出荷時には...

各VOICEボタンにサンプルのパネル設定状態が登録されています。

■電源を切った後も...

ここで登録したパネル状態は約1週間バックアップされます。

■あとで役立つ知識...

ここで登録した12種類のパネル状態をひとまとめにしてディスクに保存したり、ディスクから本体に読み込んだりすることができます。

応用機能UTIL05、06 (→P96)

■レジストレーションを呼び出したときに…

通常はレジストレーションごとに設定されたテンポにセットされますが、それをテンポだけ現在のテンポのままにしておくこともできます。

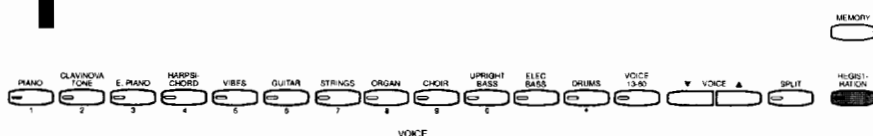
→応用機能UTIL42 (P111)

■[DISK STYLE 1]または[DISK STYLE 2]を登録した場合、呼び出すときも登録したときと同じスタイルが同じボタンに記憶されていないと、その時記憶されているスタイルが鳴ります。

パネル状態を呼び出す

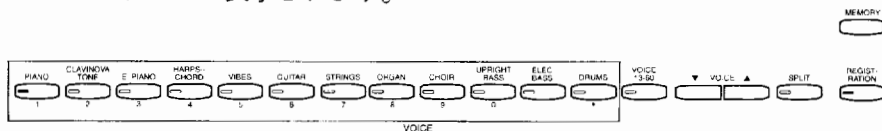
1

[REGISTRATION]を押すとランプが点灯し、VOICEボタンのランプはすべて消えます。



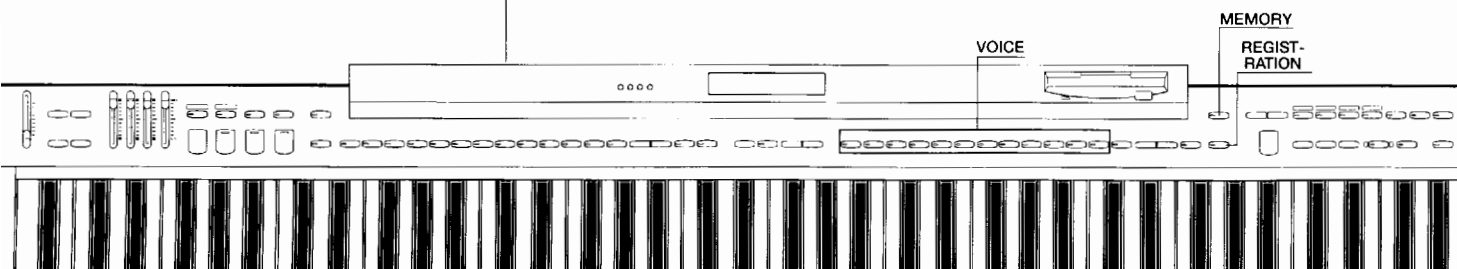
2

呼び出したいパネル状態が登録してあるVOICEボタンを押します。
押したVOICEボタンのランプが緑色で点灯し、登録してある内容に
パネル状態がセットされ、LCDに、セットされた音色、スタイル、
テンポが表示されます。



3

もう一度[REGISTRATION]を押すとランプが消え、通常の状態に戻ります。





スタイル (リズム、オート・ベース・コード [ABC])

この章ではCVP-89に用意されたさまざまなリズムに関する機能や自動伴奏(オート・ベース・コード[ABC])によるアンサンブル演奏を楽しむ方法を説明します。

35

1. リズムを使って演奏する	
・ A. 基本12スタイル(1-12)を選ぶ	36
・ B. その他のスタイル(13-50)を選ぶ	36
・ テンポ(速さ)を調節する	37
・ リズムをスタート/ストップする	38
・ フィル・インを入れる	41
・ リズム音量と手弾きの音量のバランスをとる	42
2. メトロノームを使う	43
3. 自動伴奏(オート・ベース・コード[ABC]) を使って演奏する	44
・ 自動伴奏の種類	44
・ ABCを使って演奏する	46
・ ABC 音量(アカンパニメント・ボリューム)と 手弾き音量のバランスをとる	48
4. ディスク・スタイルを使う	49
5. ソロ・スタイルプレイを使って演奏する	51
6. オリジナルのリズムをつくる (カスタム・リズム機能)	53



1. リズムを使って演奏する

■各スタイルのご紹介…

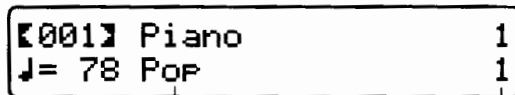
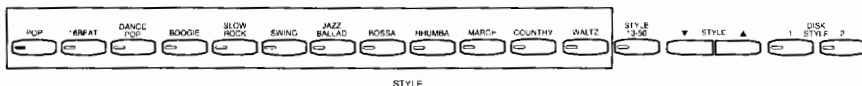
音色/伴奏スタイル一覧表(→P150)を参照ください。

■スタイルの再生音は、MIDI OUT 端子からは出力されません。

CVP-89にはパネルに表示されている基本12スタイルと、その他のスタイルとして38種類、さらに付属の「ディスク・スタイル」50種類の合計100種類の音楽スタイルが用意されています。各スタイルはリズムだけ、あるいはリズム、ベース、コードから成る自動伴奏(オート・ベース・コード[ABC])を使って楽しむことができます。

A. 基本12スタイル(1-12)を選ぶ

使いたいスタイルのSTYLEボタンを押します。

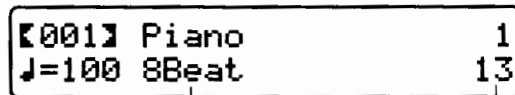


スタイル名を表示

スタイル・ナンバーを表示

B. その他のスタイル(13-50)を選ぶ

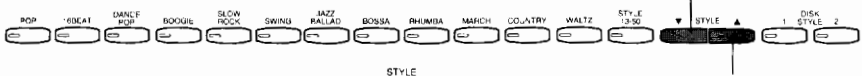
[STYLE13-50]の右側にある[▼][▲]を押してナンバーを選びます。



スタイル名を表示

スタイル・ナンバーを表示

スタイル・ナンバー・ダウン



スタイル・ナンバー・アップ

■[STYLE13-50]を押すと…

その他のスタイルの中から、前回選ばれていたスタイルが選ばれます。

■電源を入れたときは…

[STYLE13-50]を押すと、スタイル・ナンバー13「8 BEAT」になります。

■スタイル・ナンバーをはやくアップ/ダウンさせたいとき…

[▼]または[▲]を押し続けるとナンバーが連続的に変化します。

■[DISK STYLE]ボタンについて…

「ディスク・スタイル」を記憶させて使う2つの[DISK STYLE]ボタンも用意されています。(→P49)

スタイル(13-50)はパネルの基本12スタイルの名前に対応して、グループ分けされています。(→P153)

パネルの12スタイルのどれかを選んだあと、STYLE[▼][▲]を押すことにより、ダイレクトにそのグループのスタイルを選ぶことができます。

① A STYLE

① B STYLE 13-50

TAP TEMPO



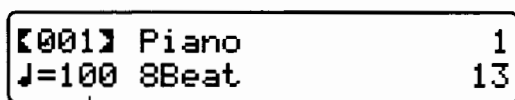
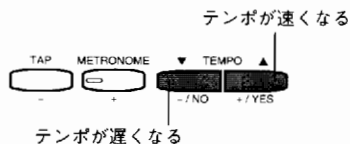


テンポ(速さ)を調節する

CVP-89のテンポ調節にはLCDの数字表示を見ながら調節する一般的な方法と、よりフィーリングを重視したタップ・テンポ機能を使う方法があります。

数値によるテンポ調節のしかた

LCDを見ながらTEMPO[▼][▲]で調節します。♩=32~280の範囲で調節できます。



テンポを表示

タップ・テンポ機能を使う

タップ・テンポとは演奏したいテンポのきざみで、[TAP]を指でたたいてテンポを指定する機能です。

リズム停止中に[TAP]を指で数回たたくと、そのタイミングのテンポで選ばれているリズムがスタートします。4拍子の曲の場合は4回、3拍子の場合は3回たたきます。



また、リズム再生中にも[TAP]を指でたたく(2回以上)とそのタイミングのテンポになります。

■各スタイルの標準テンポについて...

各スタイルにはそれぞれの標準テンポが設定されており、スタイルを選ぶと自動的にそのテンポになります。ただし、リズム再生中にスタイルを切り換えた場合は、テンポは変わりません。また、スタイルを選んだときに標準テンポにならず、そのままテンポが変わらないようにすることもできます。

→応用機能UTIL35 (P108)

■TEMPO[▼][▲]について...

TEMPO[▼][▲]は押し続けると連続して変わり、区切って押すと1ステップずつ調節できます。また、TEMPO[▼][▲]を同時に押すと、そのスタイルの標準テンポになります。



■ノーマル・タイプと バリエーション・タイプの違い について...

ノーマル・タイプはそのスタイルの基本
タイプであり、バリエーション・タイプ
はそのノーマル・タイプに少しアレンジ
を加えたものです。たとえば同じ曲の中
でも両タイプを使い分けることで曲調を
変えることができます。また、後で説明
するフィル・インと一緒に使うことによ
り効果的な演出ができます。

■リズムの音量は[RHYTHM]ボリューム
で調節します。

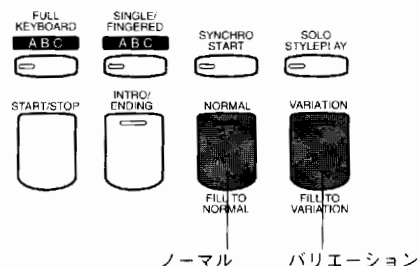
リズムをスタート/ストップする

リズムのスタート/ストップにはつぎの方法があります。

基本的なスタート/ストップの方法

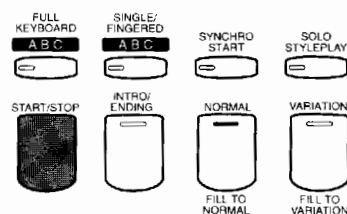
1

[NORMAL]または[VARIATION]を押して、そのスタイルのタイプ
を選びます。

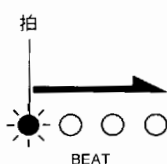


2

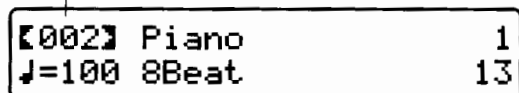
[START/STOP]を押します。



リズム再生中はビート・ランプが左から順に1拍ごとに点滅し、
LCDには小節番号が表示されます。



小節番号

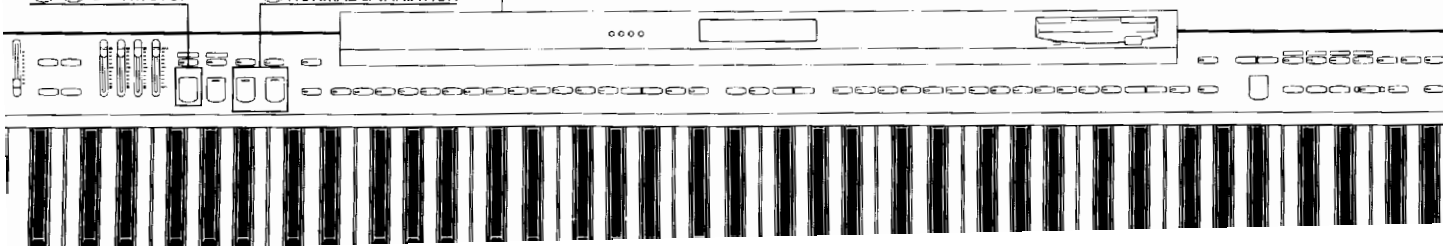


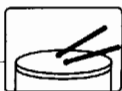
また、STYLEボタンを押して別のスタイルに切り換えられます。

3

もう一度[START/STOP]を押すとストップします。

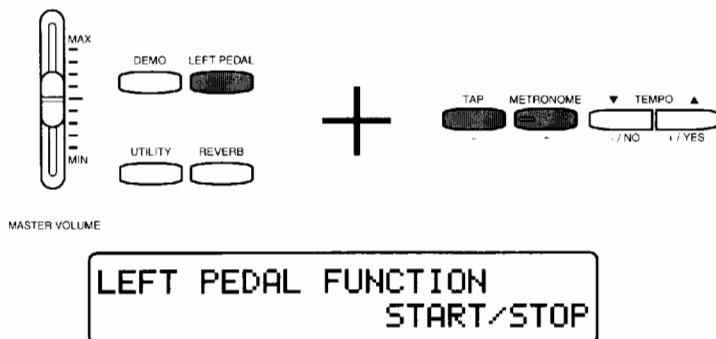
2 3 START/STOP 1 NORMAL & VARIATION





ペダルによるスタート/ストップの方法

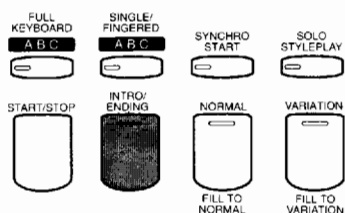
レフト・ペダルの機能をSTART/STOP(スタート/ストップ)に設定すると(→P22)、レフト・ペダルでスタート/ストップできます。



この方法を使うと、両手を使って演奏しながらリズムをスタート/ストップするときなどたいへん便利です。

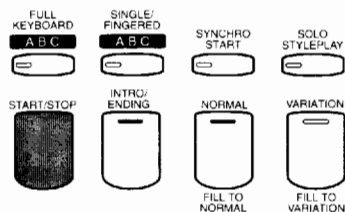
イントロ・パターンからスタートさせる方法(イントロ・スタート)

1 [INTRO/ENDING]を押すと、ランプが点滅します。



2 [NORMAL]か[VARIATION]を押して、タイプを選びます。

3 [START/STOP]を押すと、イントロ・パターンでスタートします。
イントロ再生中は[INTRO/ENDING]のランプが点灯します。

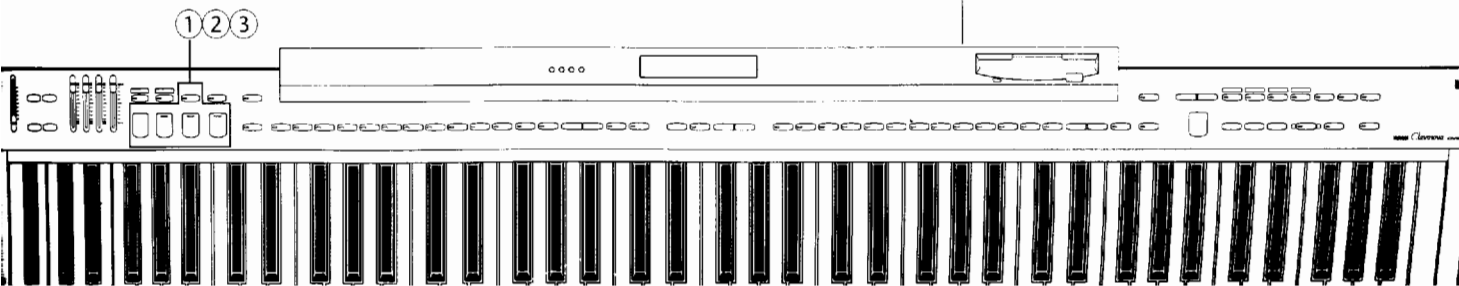


■タップ・テンポ機能(→P37)を使ってスタートさせることができます。

■イントロ・パターンについて…
スタイルのタイプごとに個別のイントロ・パターンが用意されています。

■イントロ・スタートを解除するには…
もう一度[INTRO/ENDING]を押してランプを消します。

■イントロ・スタートさせてストップしたときは、自動的にイントロ・スタートがスタンバイされます。





■フィル・イン・パターンについて…
スタイルのタイプごとに個別のフィル・イン・パターン(1小節)が用意されています。また、このあとの“フィル・インを入れる”の項もご覧ください。

■フィル・イン・スタートを解除するには…

もう一度、点滅している[FILL TO NORMAL]か[FILL TO VARIATION]を押してランプの点滅を止めます。

■フィル・イン・スタートさせてストップしたときは、自動的にフィル・イン・スタートがスタンバイされます。

■シンクロ・スタートを解除するには…

もう一度[SYNCHRO START]を押してランプを消します。

■シンクロ・スタートさせてストップした時は、自動的にシンクロ・スタートがスタンバイされます。

■スプリット機能(P25)やABC シングル/フィンガード(P44)を使っているときは…

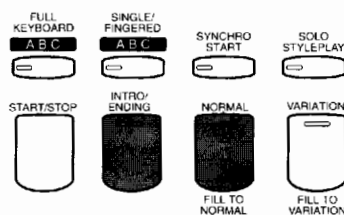
低音部の鍵盤を弾くと同時にリズム(自動伴奏)がスタートします。

フィル・イン・パターンからスタートさせる方法(フィル・イン・スタート)

1

[INTRO/ENDING]を押しながら、[FILL TO NORMAL]か[FILL TO VARIATION]を押してタイプを選びます。

[FILL TO NORMAL]か[FILL TO VARIATION]のランプが点滅します。



2

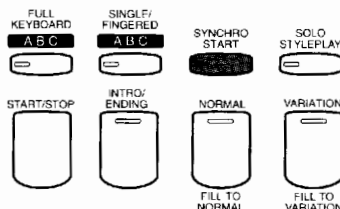
[START/STOP]を押すと、フィル・イン・パターンが再生され、ノーマルかバリエーション・タイプのリズムが続きます。

フィル・イン再生中まで[FILL TO NORMAL]か[FILL TO VARIATION]のランプが点します。

演奏と同時にスタートさせる方法(シンクロ・スタート)

1

[SYNCHRO START]を押すと、ランプが点灯し、シンクロ・スタートがスタンバイされます。

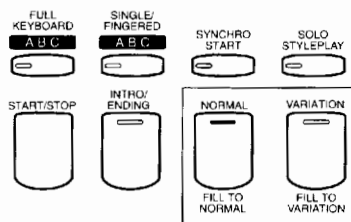


テンポに合わせて点滅

2

[NORMAL]か[VARIATION]を押して、タイプを選びます。

また、前述の方法でイントロやフィル・イン・パターンからのスタートも設定できます。



3

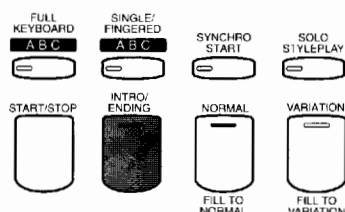
鍵盤を弾くと同時にリズムがスタートします。





エンディング・パターンでストップさせる方法

リズム再生中に[INTRO/ENDING]を押すと、エンディング・パターンが再生されて、リズムがストップします。エンディング再生中は[INTRO/ENDING]のランプが点灯します。

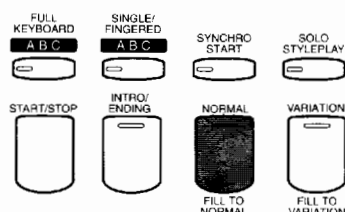


フィル・インを入れる

リズム再生中にフィル・イン(フレーズの変わり目で使われるリズム・パターン)を入れることができます。次の2つの方法があります。

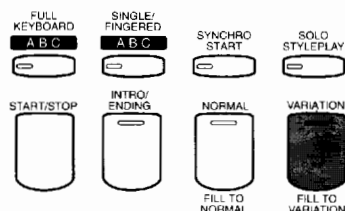
[FILL TO NORMAL]/[FILL IN BAR 左]を押す

フィル・イン・パターンが再生され、ノーマル・タイプのリズムが続きます。フィル・イン・パターン再生中は[FILL TO NORMAL]のランプが点滅します。



[FILL TO VARIATION]/[FILL IN BAR 右]を押す

フィル・イン・パターンが再生され、バリエーション・タイプのリズムが続きます。フィル・イン・パターン再生中は[FILL TO VARIATION]のランプが点滅します。



■エンディング・パターンについて…

それぞれのスタイルのタイプごとに個別のエンディング・パターンが用意されています。

■エンディングの入るタイミングについて…

小節の前半で[INTRO/ENDING]を押した場合、その小節からエンディング・パターンに変わり、後半で押した場合は次の小節から入ります。

■フィル・イン・バーについて…

フィル・イン・バー[FILL IN BAR 左]、[FILL IN BAR 右]はそれぞれ[FILL TO NORMAL]、[FILL TO VARIATION]と同じ機能を持っています。(下図参照)

■フィル・イン・パターンについて…

スタイルのタイプごとに個別のフィル・イン・パターン(1小節)が用意されています。

■フィル・インの入るタイミングについて…

[FILL TO NORMAL]/[FILL IN BAR 左] または [FILL TO VARIATION]/[FILL IN BAR 右] を押したところからその小節の終わりまでフィル・インが演奏されます。ただし、その小節の最後の半拍以降に押した場合は次の小節にフィル・インが演奏されます。

サビの前や曲の雰囲気が変わるところでタイミングよくフィル・インを入れると、演奏が盛り上がりたり落ち着いたりしますのていろいろと試してコツを覚えましょう。

■ちょっと覚えておこう…

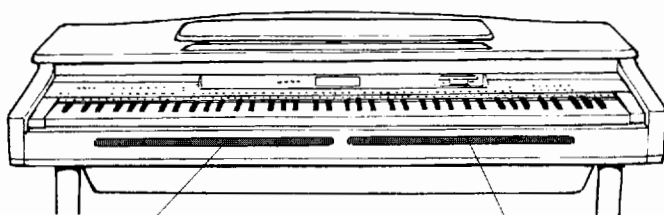
レフト・ペダルの機能を RHYTHM BREAK (リズム・ブレイク) に設定しておく、レフト・ペダルでリズム・ブレイク ON/OFF をコントロールすることもできます。

この場合、リズム再生中にレフト・ペダルを踏むと、リズム(ABC)がブレイクし、次の小節の頭で自動的にブレイクが解除されます。また、レフト・ペダルを踏み続けると次の小節でもブレイクは解除されず、ペダルを離したあとの次の小節の頭で解除されます。ブレイク中にもう一度ペダルを踏んで解除することもできます。

(→P22)

フィル・イン・バーについて

2つのフィル・イン・バー左/右は、それぞれ[FILL TO NORMAL] [FILL TO VARIATION]と同じ機能を持っています。



フィル・イン・バー左

フィル・イン・バー右



スタイル(リズム、オート・ベース・コード [ABC])

■全体の音量は…

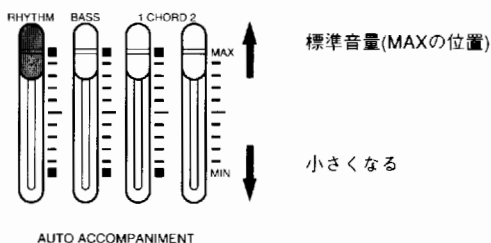
[MASTER VOLUME]で調節します。

リズム音量と手弾きの音量のバランスをとる

リズムに合わせて演奏するとき、リズムの音量と手弾きの音量のバランスを次の2つの方法で調節できます。

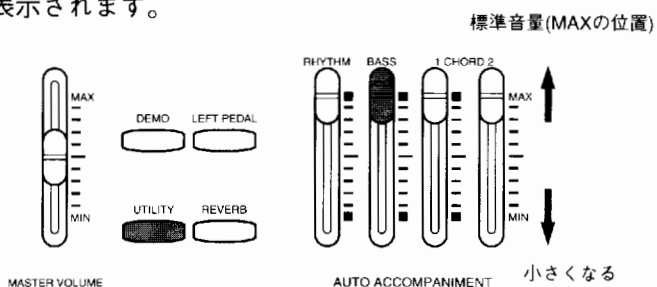
1

リズム音量を小さくする(リズム音量が大きすぎる場合)
[RHYTHM]ボリュームでリズム音量だけを小さくできます。



2

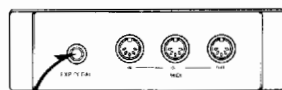
手弾きの音量を小さくする(手弾きの音量が大きすぎる場合)
[UTILITY]を押しながら、[BASS]ボリュームを動かすと、手弾きの音量だけを小さくできます。操作中LCDにボリュームの値(1~127)が表示されます。



【001】 Piano 1
♩=120 MANUAL VOL. 100

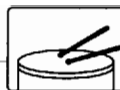
エクスプレッション・ペダル

CVP-89ではオプション(別売)のエクスプレッション・ペダルEP-1を本体右下のEXP PEDAL端子に差し込んで使うと、演奏しながら手弾きの音量だけを調節し、演奏に表情をつけることができます。



エクスプレッション・ペダルEP-1

ペダルを踏み込むと音量が大きくなり、戻すと小さくなります。

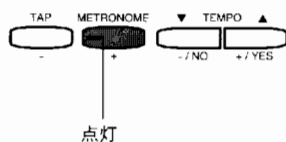


2. メトロノームを使う

正確なテンポで演奏したいとき、CVP-89のメトロノームをお使いください。

メトロノームをスタート/ストップさせる

[METRONOME]を押すとランプが点灯し、現在のテンポでメトロノームが鳴り出します。



もう一度[METRONOME]を押すとランプが消え、メトロノームは止まります。(START/STOPを押すと、メトロノームは止まらず、リズムがスタートします。)

■リズムとメトロノームをいっしょに使うとき...

メトロノーム動作中にリズムをスタートさせると、そのリズムと同じタイミングでメトロノームも動作します。リズム再生中にメトロノームをスタートさせた場合も、そのリズムと同じタイミングでメトロノームは動作します。メトロノームもリズムも動作中のとき、リズムを止めるとメトロノームも同時に止まります。

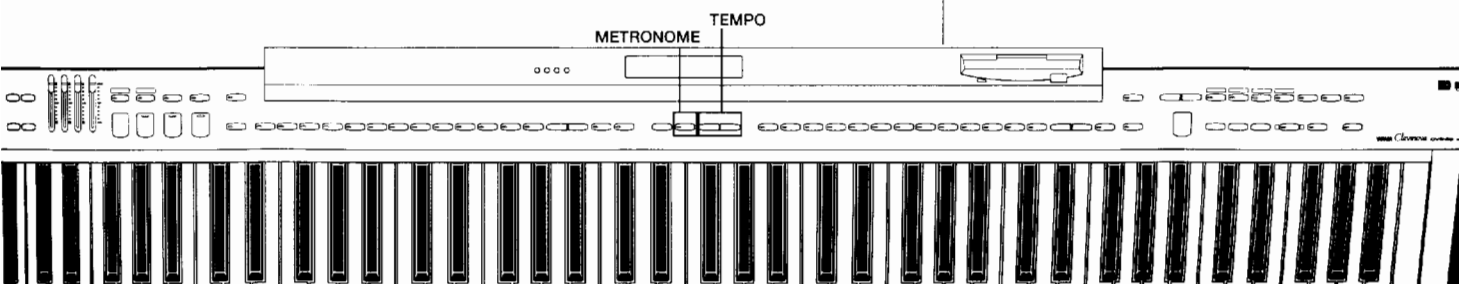
メトロノームのテンポと音量を調節する

テンポの調節

リズムのテンポ調節と同じようにTEMPO[▼]と[▲]を使って♩=32~280の範囲で設定できます。

音量の調節

リズムの音量調節と同じように[RHYTHM]ボリュームを動かして調節します。





3. 自動伴奏 (オート・ベース・コード[ABC]) を使って演奏する

■ABCの再生音は、MIDI OUT端子からは出力されません。

CVP-89にはシングル・フィンガー、フィンガード、フル・キーボードの3種類の自動伴奏システム(オート・ベース・コード [ABC])があります。

自動伴奏の種類

シングル・フィンガー

左手(低音部)鍵盤を下記のルールにしたがって1つ〜3つ押さえるだけで、スタイルに合ったアレンジでリズム、ベース、コード・パートから成る自動伴奏が再生されます。自動伴奏にあわせて右手(高音部)でメロディを弾いてください。

シングル・フィンガーのコードの押え方

シングル・フィンガーでは下記の4種類のコードで演奏できます。
(P156にコード一覧表が用意されています)。

●メジャー

コードのルート音の鍵盤を押します。

例) C(シー)を出す場合



●セブンス

コードのルート音とそのすぐ左側の白鍵を同時に押します。

例) C7(シー・セブンス)を出す場合



●マイナー

コードのルート音とそのすぐ左側の黒鍵を同時に押します。

例) Cm(シー・マイナー)を出す場合



●マイナー・セブンス

コードのルート音とそのすぐ左側の白鍵と黒鍵を同時に押します。

例) Cm7(シー・マイナー・セブンス)を出す場合



コードのルート音(CDEFGAB)がどの鍵盤に対応しているかは、下記のように覚えましょう。





フィンガード

左手(低音部)でコード(和音)を押さえると、自動伴奏が再生されます。自動伴奏にあわせて右手(高音部)でメロディを弾いてください。

フィンガード・コードについて

フィンガードでは下記の20種類のコードで演奏できます(P156にフィンガード/シングル・フィンガー・コード一覧表が用意されています)。

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| ●メジャー | ●マイナー・セブンス・フラット・ファイブ(m7(b5)) |
| ●マイナー(m) | ●メジャー・セブンス・フラット・ファイブ(M7(b5)) |
| ●セブンス(7) | ●マイナー・メジャー・セブンス・フラット・ファイブ(mM7(b5)) |
| ●マイナー・セブンス(m7) | ●マイナー・シックス(m6) |
| ●メジャー・セブンス(M7) | ●セブンス・サスフォー(7sus4) |
| ●マイナー・メジャー・セブンス(mM7) | ●フラット・ファイブ(b5) |
| ●オーギュメント(aug) | ●マイナー・フラット・ファイブ(m(b5)) |
| ●ディミニッシュ(dim) | ●セブンス・フラット・ファイブ(7(b5)) |
| ●シックス(6) | ●セブンス・シャープ・ファイブ(7(#5)) |
| ●サスフォー(sus4) | ●メジャー・セブンス・シャープ・ファイブ(M7(#5)) |

- ・5音同時に押さえると、オン・ベース・コードを指定することができます。この場合、一番低い音がベース音となり、それ以外の4音(これを検出できないときは3音)がコードとなります。
- ・シングル・フィンガー以外の方法で2音を押さえた場合でも、前のコードから適当なコードが検出されます。

フル・キーボード

通常のピアノ両手演奏をするだけで、コードを押さなくても自動伴奏が再生されます。シングル・フィンガー、フィンガードのように伴奏用の鍵域はありませんので、全鍵域のどこを弾いても自動伴奏が再生されます。(アレンジによって、「フル・キーボード」ABCに合わない楽譜もあります。)

■ちょっと覚えておこう…

オート・ベース・コード(ABC)といっしょに、スプリット(P25)またはデュアル(P23)も同時に使うことができます。

■フル・キーボードでは、小節のはじめからだいたい8分音符間隔でコードが検出されます。この間隔以内で弾かれた短いコードは検出されません。

■従来型フル・キーボード…

通常のピアノ両手演奏をしながら、鍵盤のどこでも3音以上の和音でコードを押さえると自動伴奏が再生されます。なお、2音でのコードは検出されません。また、5音以上押さえた場合は、低い4音でコードを検出します。上表の20種類のコードの内、(b5)、7(b5)、M7(b5)、mM7(♭5)のコードは検出されません。

■ABCパートの録音について…

シングル・フィンガー、フィンガードでは、ABCパートをあらかじめ録音しておく、それを再生させながらメロディだけ弾くという方法で簡単に楽しめます。

「ABC/ソロ・スタイルプレイで録音する」

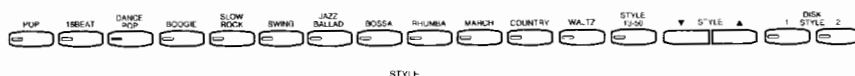
(→76P)

「コード・シーケンスで録音する」(→78)

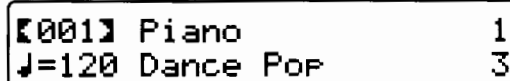


ABCを使って演奏する

1 スタイルを選ぶ

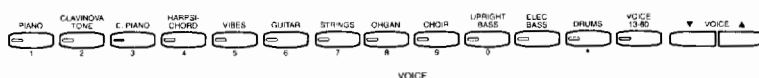


2 テンポを設定する



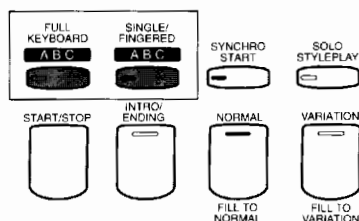
3 音色を選ぶ

右手のメロディ演奏用の音色(高音部の音色)を選びます。



4 ABCの種類を選ぶ

[FULL KEYBOARD]、[SINGLE/FINGERED]のどちらかを押し、ランプをつけます。



シンクロ・スタートがスタンバイされ、[SINGL/FINGERED]を選んだ場合、スプリット・ポイントの鍵盤ガイドランプがつきます。

(この段階でABC演奏を中止したい場合は、もう一度[FULL KEYBOARD]、[SINGLE/FINGERED]のどちらかを押し、ランプを消します。

■シンクロ・スタートについて…

ABC(シングル/フィンガード、フル・キーボード)をONにすると、自動的にシンクロ・スタートもONになるように設定されています。この設定を解除することもできます。

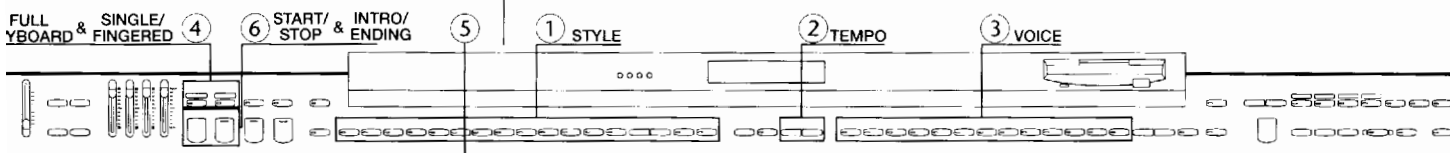
→応用機能UTILTIL36(P108)

■従来型フル・キーボードについて…

従来型フル・キーボードの場合は、[FULL KEYBOARD]、[SINGLE/FINGERED]を両方押して、両方のランプをつけます。

■スプリット・ポイントについて…

電源を入れたときは、F#2の鍵盤がスプリット・ポイントです。
[SINGLE/FINGERED]を押しながら、スプリット・ポイントにしたい鍵盤を押すと変更できます。
操作中はLCDにスプリット・ポイントの鍵盤名が表示されます。

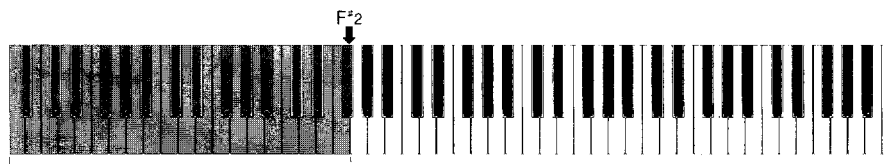




5 演奏をスタートする

シングル/フィンガードの場合

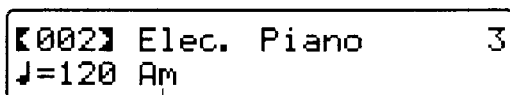
低音部の鍵盤を弾くと同時に自動伴奏がスタートします。



左手(低音部)でコードを押さえ、右手(高音部)でメロディを弾いてください。
シングル・フィンガー/フィンガードのどちらの押さえ方も使えます。

フル・キーボードの場合

全鍵域のどこでも鍵盤を弾くと同時に自動伴奏がスタートします。

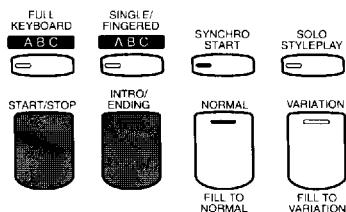


コードを表示

演奏中は検出されたコードがLCDに表示されます。

6 演奏をストップする

[START/STOP]か[INTRO/ENDING]を押します。ストップすると自動的にシンクロ・スタートがスタンバイされます。



ABCから通常の状態に戻るときは、ランプの点灯している
[FULL KEYBOARD]、[SINGLE/FINGERED]を押してランプを消してください。

■音量調節について…

[RHYTHM][CHORD1][CHORD2][BASS]
ボリュームは、MAXの位置で標準音量
に設定されています。音量調節につ
いて詳しくは、“ABC音量と手弾き音量
の調節”(P48)をご覧ください。

■演奏にメリハリをつける…

ABC演奏でもリズム同様に[INTRO/
ENDING]、[FILL TO NORMAL]、[FILL
TO VARIATION]の組み合わせによって、
さまざまなパターンを演出できます。
たとえば、[INTRO/ENDING]を押して
おいて鍵盤を弾くとイントロのフレーズ
で始まります。詳しくは“1.リズムを使っ
て演奏する”(P36)をご覧ください。

■コードの押さえ方について…

左手(低音部)でコードを押さえたあと指
を離しても、次のコードを押さえるまでは
同じコードの伴奏が続きます。また、コード
を変えるとき、指を鍵盤から離さないで動
かすと、コードが思いどおりに変わらない
ことがあります。一度指を離してから次の
コードを押さえてください。

■シングル/フィンガードの場合、通常
は左手で押さえた鍵盤のコード和音は
鳴りませんが、スプリット機能(P25)を
ONにすると、コード和音がスプリット機
能で設定した低音部の音色で鳴ります。

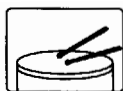
■検出されなかったコードは…

コードのルートは表示されますが、タイプ
は*で表示されます。

■従来型フル・キーボード の場合…

全鍵域のどこでも鍵盤を弾くと同時に
自動伴奏がスタートします。

■従来型フル・キーボードから通常の
状態に戻るときは、[FULL KEYBOARD]
か[SINGLE/FINGERED]を2回押して
ください。



■ABCのパートについて…

スタイルによっては、はじめからあるパートを使っていないものもあります。

■ちょっと覚えておこう…

[CHORD2]のボリュームを0にしてみるとか、[CHORD1]と[CHORD2]のボリュームを0にして、[RHYTHM]と[BASS]だけの伴奏にするとか、組み合わせ次第でいろいろなタイプの伴奏になります。

■あとで役立つ知識…

アカンパニメント・ボリュームはモジュレーションやピッチ・ベンドなどのコントローラーとして使うこともできます。→応用機能UTIL34 (P107)

■ミュート機能について…

右手のメロディがABCの音と音楽的にぶつかる場合、自動的にABCのあるパートの音量が消えたり下がったりします(ミュート機能)。ミュート機能は電源を入れたときはONになっていますが、OFFにすることもできます。

→応用機能UTIL43 (P111)

■簡易調性判断機能について…

ABC(フル・キーボードを除く)でセブンス・コード(7th)演奏時、短調系の場合に9度を8度に、6度を5度に変更します(簡易調性判断機能)。

簡易調性判断機能は電源を入れたときはOFFになっています。

→応用機能UTIL44 (P111)

■全体のボリュームは…

[MASTER VOLUME]で調節します。

■エクスプレッション・ペダルを使うと…

演奏しながら手弾きの音量だけを調節し、演奏に表情をつけることができます。(P42)

ABC 音量 (アカンパニメント・ボリューム)と手弾き音量のバランスをとる

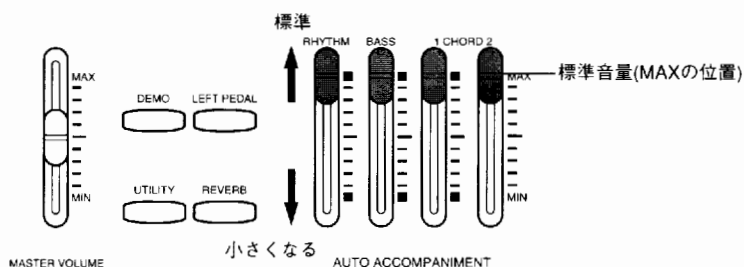
ABCを使って演奏するとき、ABCの各パートの音量と手弾きの音量のバランスを次の2つの方法で調節できます。

1

ABCの各パートの音量を小さくする

(各パート間の音量バランスを調節したい場合、また手弾き音に対してABC音量が大きすぎる場合。)

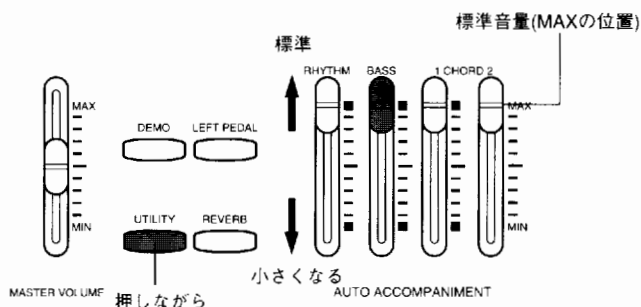
[RHYTHM][CHORD1][CHORD2][BASS]のボリューム・コントロールでそれぞれのパートの音量を調節できます。



2

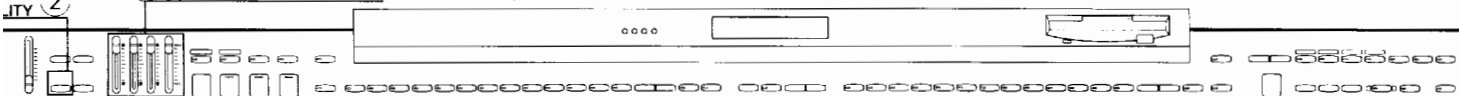
手弾きの音量を調節する(手弾きの音量が大きすぎる場合)

[UTILITY]を押しながら、[BASS]ボリュームを動かすと手弾きの音量だけを小さくできます。



操作中LCDにボリューム値(1~127)が表示されます。

【001】 Piano 1
♩=120 MANUAL VOL. 100



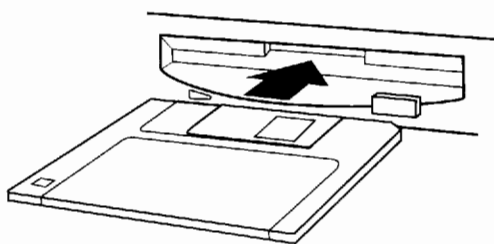


4. ディスク・スタイルを使う

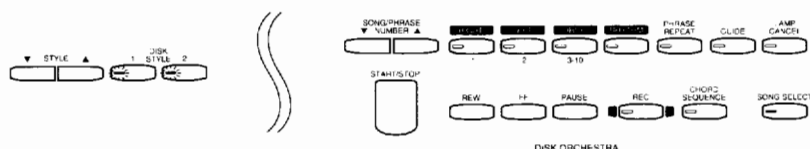
内蔵の50種類のスタイルの他に、付属の「ディスク・スタイル」には50種類のスタイルが入っています。このディスクのスタイルは[DISK STYLE1]または[DISK STYLE2]のボタンに記憶させてパネルのスタイルと同様に使えます。ディスクを取り扱う前に必ず“フロッピー・ディスクについて”(→P69)をよくお読みください。

「ディスク・スタイル」を[DISK STYLE 1または2]に記憶させる

- 1 「ディスク・スタイル」をセットする
「ディスク・スタイル」のディスクを図のような正しい向きと方向でディスク挿入口にしっかりと入れます。



[SONG SELECT]のランプが点灯し、[DISK STYLE1]と[DISK STYLE2]のランプが交互に点滅します。また、1番目のスタイルがディスクから読み込まれ、LCDに表示されます。

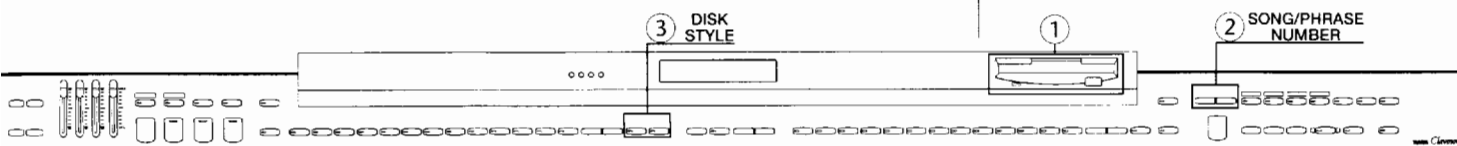


ABC(→P44)がOFFのときに「ディスク・スタイル」をセットすると、自動的にABCの[SINGLE/FINGERED]がONになり、シンクロ・スタートがスタンバイされます。(すでにABCがONになっていた場合はそのままになります。)

■各スタイルについては、ディスク・スタイルのリスト(→P153)を参照してください。

■ちょっと気をつけて…

すでに「ディスク・スタイル」が差し込まれていて、[SONG SELECT]のランプが消えている場合は、[SONG SELECT]を押してランプをつけてください。ランプが消えていると[DISK STYLE 1]と[DISK STYLE 2]のランプは点滅せず、次の操作へ進めません。





■かならず守って…

ユーズ・ランプが点灯しているときはディスクを取り出さないでください。

ユーズ・ランプ

(ディスクからスタイルを読み込んでいる間点灯します。)

■ちょっと気をつけて…

[DISK STYLE1]と[DISK STYLE2]に、すでにスタイルが記憶されていた場合は、記憶されていたスタイルが消えて新しく選んだものが記憶されます。

■工場出荷時には…

[DISK STYLE1]と[DISK STYLE2]へ、あらかじめプログラムされたスタイルが記憶されています。

■標準テンポの変更…

スタイルを記憶させる前にテンポを変更すると、そのテンポがそのスタイルの標準テンポとしてスタイルと一緒に記憶されます。

■スタイルのコピーについて…

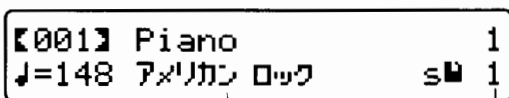
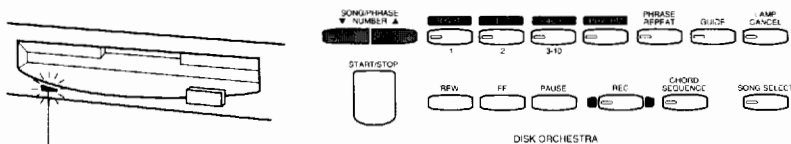
「ディスク・スタイル」は別のディスクにコピーできます。(→P85)

■ちょっと覚えておこう…

一度記憶させたスタイルは電源をOFFにしても約1週間はバックアップされます。続けて記憶させる場合には、最低1週間おきに30秒以上電源を入れてください。

2 記憶させるスタイルを選ぶ

SONG/PHRASENUMBER[▼][▲]を押して、記憶させたいスタイルの番号をLCDに表示させます。



スタイル名

スタイル・ナンバー

ここでコードを弾いて、選んだスタイルを聞いてみるができます。

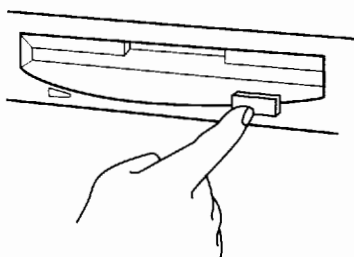
3 選んだスタイルを記憶させる

[DISK STYLE1]と[DISK STYLE2]のうち、どちらかを押すと、ランプが点灯し、選んだスタイルが記憶されます。記憶が完了すると[SONG SELECT]のランプは消えます。



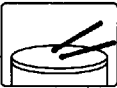
もう一方の[DISK STYLE]にも別のスタイルを記憶させたい場合は[SONG SELECT]を押してランプをつけ、操作2と3を繰り返してください。

操作を終えたら、イジェクト・ボタンを押して、ディスクを取り出してください。



記憶させたスタイルを使う

パネルの基本12スタイルを選ぶのと同じ操作で、使うことができます。[DISK STYLE1または2]を選んだときは、そのスタイル名が、LCDに表示されます。スタイル・ナンバーは、[DISK STYLE 1]を選択した時に51番が、[DISK STYLE 2]を選択した時に52番が表示されます。

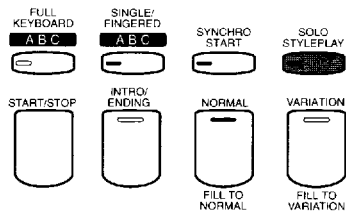


5. ソロ・スタイルプレイを使って演奏する

ソロ・スタイルプレイを使うとABCに加えて、右手のメロディにハーモニーや装飾音がつけ加えられます。

1 ソロ・スタイルプレイをONにする

[SOLO STYLEPLAY]を押してランプをつけます。
[SINGLE/FINGERED]のシンクロ・スタートが自動的にスタンバイされます。

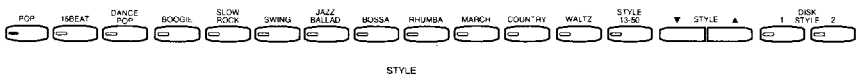


■ちょっと覚えておこう…
ソロ・スタイルプレイをONにする前に、すでに[FULL KEYBOARD]になっていた場合も、自動的に[SINGLE/FINGERED]になります。

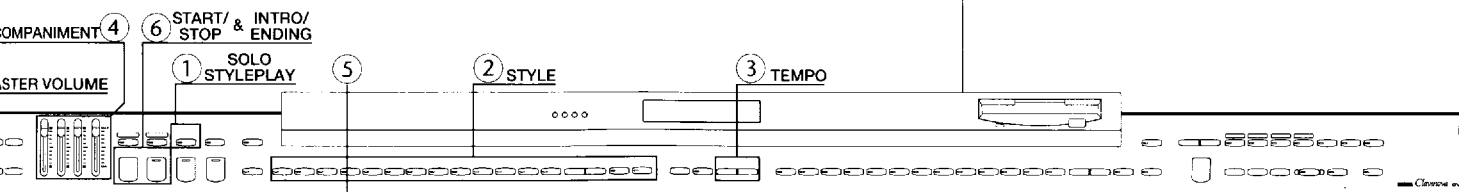
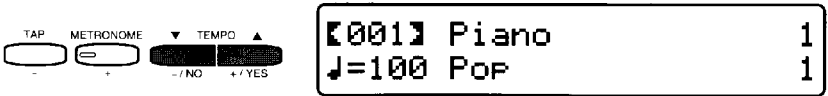
■ソロ・スタイルプレイのONはスタイルを選んだあとや、演奏中にもできます。

2 スタイルを選ぶ

ソロ・スタイルプレイでは、スタイルを選ぶと、そのスタイル用のメロディ音色が自動的に選ばれます。音色を変えたい場合は、VOICEボタンで選び直してください。



3 テンポを調節する





■ハーモニーや装飾音のパターンについて…

右手のメロディに加わるハーモニーや装飾音のパターンはスタイルごとに自動設定されます。

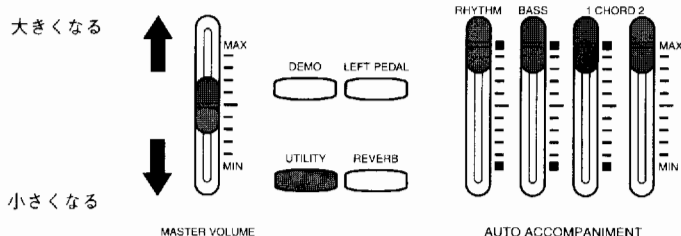
■右手のメロディが、単音になるスタイルもあります。

■ちょっと覚えておこう…

[SINGLE/FINGERED]をOFF、または[FULL KEYBOARD]をONにすると、ソロ・スタイルプレイはOFFになります。

4 ボリュームを調節する

ABC音量(アカンパニメント・ボリューム)や手弾き音、全体のボリュームを調節します。



5 演奏をスタートする

低音部の鍵盤を弾くと同時に自動伴奏がスタートします。

左手(低音部)でコードを押さえ、右手(高音部)でメロディを弾いてください。メロディにハーモニーや装飾音加わります。

6 演奏をストップする

[START/STOP]か[INTRO/ENDING]を押します。ストップすると自動的にシンクロ・スタートがスタンバイされます。

ソロ・スタイルプレイをOFFにしたいときは、[SOLO STYLEPLAY]を押してランプを消してください。

ハーモニーや装飾音のパターンの変更

メロディに加わるハーモニーや装飾音のパターンと音色は別のスタイル用のものを選ぶこともできます。手順2でスタイルを選んだあと、[SOLO STYLEPLAY]を押しながら使いたいパターンのSTYLEボタン([DISK STYLE1、2]以外)を押します。

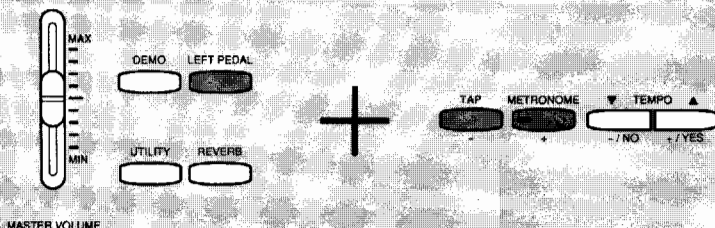
選ばれたスタイルのランプが点滅し、操作中は、LCDに選ばれたスタイルのナンバーが表示されます。

【001】 Piano 1
♪= 78 SOLO STYLEPLAY 2

選ばれたスタイルのNo.

ペダルによるコントロールの方法

レフト・ペダルの機能をソロ・スタイルプレイに設定すると(→P22)、レフト・ペダルを踏んでいる間だけ、メロディにハーモニーや装飾音がつきます。



この方法を使うと、ABC演奏中にソロ・スタイルプレイがON/OFFできるので、盛り上げたいところだけソロ・スタイルプレイを使うことができます。



6. オリジナルのリズムをつくる (カスタム・リズム機能)

カスタム・リズム機能を使えば、オリジナルのリズム・パターンを最大12種類まで作ることができます。作ったパターンは、パネルのスタイルボタンに登録できますので、プリセットのスタイルと同様にいつでも呼び出して使うことができます。

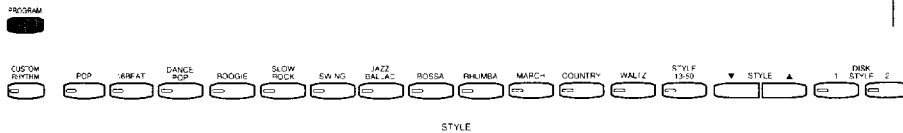
カスタム・リズムを作成する

1 元になるスタイルを選ぶ
STYLEボタンを押して、今から作ろうとしているリズムにもっとも近いスタイルを選びます。(ノーマルかバリエーションも指定します。)



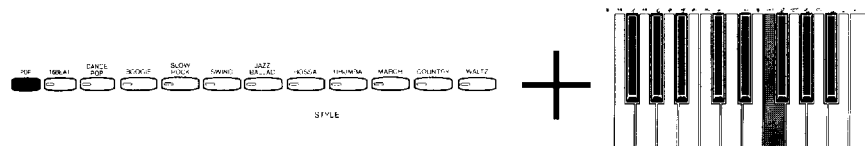
ここで選んだスタイルによって拍子やABCのパターンが決まります。

2 [PROGRAM]を押す
[PROGRAM]を押すとランプが点灯し、選んだスタイルのリズムがスタートします。また、自動的にVOICEボタンの[DRUMS]が選ばれ、キーボード・パーカッションの状態になります。



すでにカスタム・リズムが登録されている場合は、登録されているSTYLEボタンのランプが緑色で点灯します。

もし、すでに登録されているカスタム・リズムを消去したい場合は、[CANCEL] (F6の鍵盤) を押しながら、消したいカスタム・リズムが登録されているSTYLEボタンを押します。



■ちょっと気をつけて...

カスタム・リズム機能では拍子やABCのパターンを変更することはできません。したがって、3/4拍子のリズムを作りたい場合は、ワルツなどのスタイルを選んでおく必要があります。

■ちょっと覚えておこう

元になるスタイルとして、50種類のプリセット・スタイルだけでなくディスクから読み込んで[DISK STYLE1/2]に登録させたものや、すでに作成済みのカスタム・リズムを選ぶこともできます。

■1つのカスタムリズムで作成できるパターンは...

基本パターン×1 (NORMAL)
フィル・イン×2 (FILL IN 1/2)
イントロ×1 (INTRO)
エンディング×1 (ENDING)
となります。フィル・イン、イントロ、エンディングの作成方法については、55ページの欄外の説明をご覧ください。

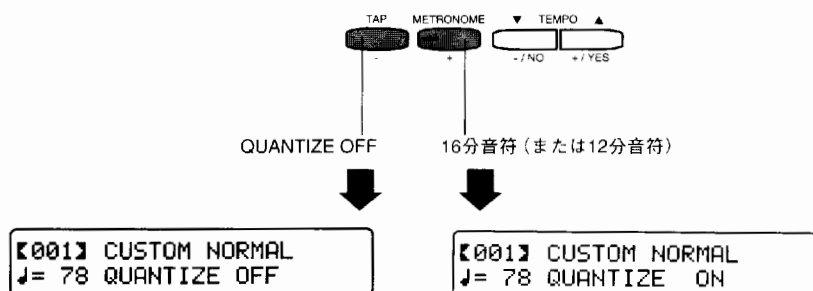


■電源を入れたときは...

QUANTIZE ON (16または12分音符)
になります。

3 分解能を選ぶ

[TAP]または[METRONOME]を押して、16分音符(3連系のパターン
の場合は12分音符:8分3連音符)に補正するか(QUANTIZE ON)、
補正しないか(QUANTIZE OFF)を選びます。



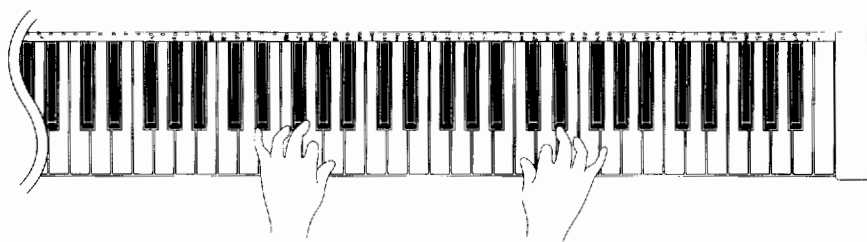
■鍵盤をたたく強さによって...

音の強弱の変化も記録することができます。

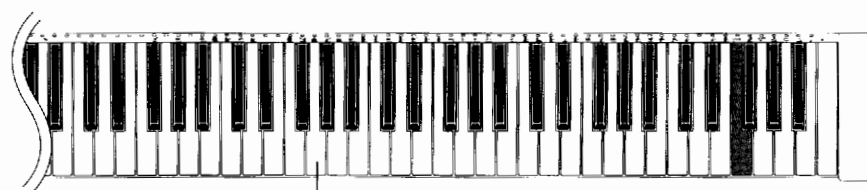
4 リズムを入力する

鳴っているリズムに合わせて、好きな打楽器音が割り当てられて
いる鍵盤をタイミングよくたたいてリズム演奏し、打楽器音を入力
していきます。(打楽器音については→P18)

リズムは2小節の長さで繰り返されますので、少しずつ打楽器音を加
えていくことができます。



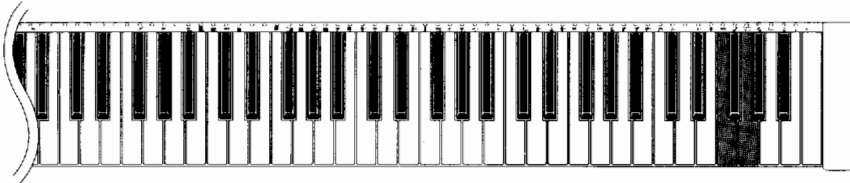
もし、演奏をまちがえたときなど、特定の打楽器音を消したい
場合は、[CANCEL] (F6の鍵盤)を押しながら消したい打楽器音
の鍵盤を押します。



消したい打楽器音の鍵盤

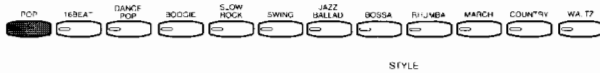


また、現在鳴っているすべての音を消して、最初からリズムを作りたい場合は、[CANCEL] (F6の鍵盤) と[CLEAR ALL] (G6の鍵盤) を同時に押します。それまで鳴っていた打楽器音はすべて消え、ガイドのメトロノーム音だけが鳴り出します。このメトロノーム音に合わせてリズム演奏すればまったく新しいリズムを作ることができます。



5 カスタム・リズムを登録する

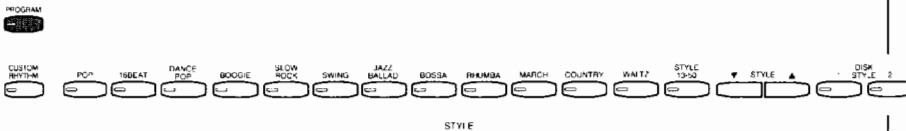
12個のSTYLEボタンのいずれかを押すと、今作ったカスタム・リズムがそのボタンに登録され、そのボタンのランプが緑色で点灯します。



登録後、カスタム・リズムの作成を終了する場合は、

[PROGRAM]ボタンを押してランプを消します。

登録せずに終了する場合は、STYLEボタンを押さずに[PROGRAM]ボタンを押します。



■フィル・イン・パターンを作りたい場合は...

カスタム・リズムの作成中に[FILL TO NORMAL]または[FILL TO VARIATION]を押してランプを点滅させると、1小節のフィル・イン・パターンを入力することができます。もう一度、先程押した[FILL TO NORMAL]または[FILL TO VARIATION]を押すと、もとのカスタム・リズム作成中の状態に戻ります。各ボタンにそれぞれのフィル・イン・パターン(FILL IN 1, FILL IN 2)を登録することができます。

■イントロ/エンディング・パターンを作りたい場合は...

カスタム・リズムの作成中に[INTRO/ENDING]を押してランプを点滅させると、エンディング・パターンを入力することができます。また、リズムを一度ストップさせた状態で[INTRO/ENDING]を押してリズムをスタートさせれば、イントロ・パターンを入力することができます。なお、イントロやエンディングの小節数は元になっているスタイルと同じ長さになります。(ただし最大は8小節)

■ちょっと覚えておこう...

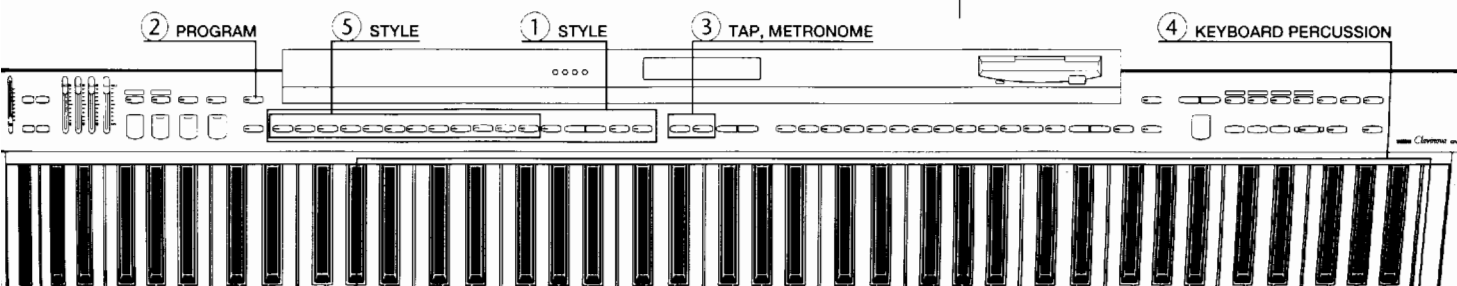
同じタイミングで鳴らせる打楽器音は最大で8音です。

■キーボード・パーカッションの設定について...

ドラムのキットや各打楽器音のリバーブやパンの設定を好みに合わせて変更することができます。応用機能UTIL40 (→P109)

■あとで役立つ知識...

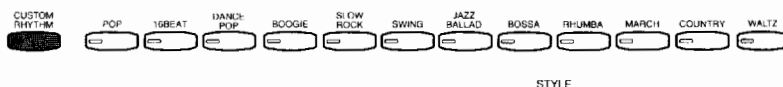
ここで作成した12種類のカスタム・リズムのデータをひとまとめにしてディスクに保存したり、ディスクから本体に読み込んだりすることができます。応用機能UTIL09、10 (→P98、99)





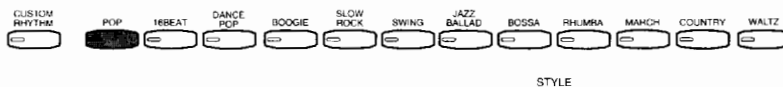
カスタム・リズムを再生させる

1 [CUSTOM RHYTHM]を押す



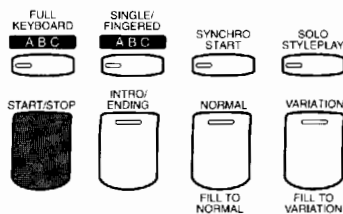
2 再生したいカスタム・リズムを選ぶ

再生したいカスタム・リズムが登録されているSTYLEボタンを押します。



3 リズムをスタートする

[START/STOP]を押すと、選んだカスタム・リズムがスタートします。



■ちょっと覚えておこう...

カスタム・リズムを使ってABC演奏を行なった場合、そのカスタム・リズムの元になっているスタイルと同じ伴奏パターンが使われます。ただし、元になっているスタイルがディスク・スタイルである場合は、そのディスク・スタイルが[DISK STYLE 1/2]ボタンに記憶されていないとABC演奏時に伴奏音は鳴りません。

■電源を切った後も...

登録されたカスタム・リズムのデータは約1週間はバックアップされます。大事なカスタム・リズムのデータはディスクへ保存されることをおすすめします。

応用機能UTIL09 (→P98)

選んだSTYLEボタンにカスタム・リズムのデータが登録されていない場合は、スタートしても音が出ません。